

Enterprise Vault™

Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類

12.3

Enterprise Vault™: Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類

最終更新日: 2018-03-09。

法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
500 E Middlefield Road
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。

サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の **Web** サイトを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP.html

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

テクニカルサポートに連絡する前に、**Veritas Quick Assist (VQA)** ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は **Veritas** サポート **Web** サイトの次の記事からダウンロードできます。

https://www.veritas.com/support/en_US/vqa

マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは **Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095

マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

evdocs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

目次

| | | |
|-------|---|----|
| 第 1 章 | 本書について | 7 |
| | このマニュアルについて | 7 |
| | FCI 分類とその他の分類方法との関係 | 8 |
| | Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 | 9 |
| | Enterprise Vault トレーニングモジュール | 11 |
| 第 2 章 | はじめに | 12 |
| | 分類について | 12 |
| | 分類設定手順の概要 | 13 |
| | 分類の前提条件 | 14 |
| | 役割ベースの管理 (RBA) と分類機能 | 15 |
| | Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法 | 15 |
| | 分類ファイルサイズの制限 | 16 |
| | Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認 | 17 |
| | キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成 | 18 |
| 第 3 章 | 分類プロパティの設定 | 19 |
| | Enterprise Vault 分類プロパティについて | 19 |
| | 手動での Enterprise Vault 分類プロパティの設定 | 21 |
| | [フォルダの使用法] 分類プロパティの確認 | 23 |
| | 分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用 | 25 |
| | Enterprise Vault 分類プロパティの新しい値の設定 | 27 |
| | 保持カテゴリの設定に関する注意事項 | 28 |
| 第 4 章 | 分類ルールの設定 | 31 |
| | 分類ルールについて | 31 |
| | 分類ルールの例について | 31 |
| | サンプルルールセットのインポート | 35 |
| | 分類ルールの作成または変更 | 36 |
| | Veritas 情報分類子の方法を使うルールのサポート対象構成パラメータ | 39 |

| | | |
|-------|---|----|
| 第 5 章 | 分類ポリシーの定義と適用 | 44 |
| | 分類ポリシーについて | 44 |
| | 分類ポリシーの定義 | 46 |
| | 分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について | 47 |
| | 分類プロパティと保持計画の関連付け | 48 |
| | 保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について | 50 |
| | Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用 | 51 |
| 第 6 章 | テストモードでの分類の実行 | 53 |
| | 分類テストモードについて | 53 |
| | 分類テストモードの実装 | 54 |
| | テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について | 55 |
| | 分類テストモードレポートについて | 55 |
| 第 7 章 | サイト全体への分類プロパティとルールの公開 | 57 |
| | 分類のプロパティとルールの公開方法 | 57 |
| 第 8 章 | スマートパーティションを使用した分類 | 59 |
| | スマートパーティションについて | 59 |
| | Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするか どうかを決める方法 | 60 |
| | スマートパーティションの設定 | 61 |
| | Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされた ことの確認 | 62 |
| 付録 A | 分類ルールで使う Enterprise Vault プロパティ | 63 |
| | Enterprise Vault のプロパティについて | 63 |
| | システムプロパティ | 64 |
| | 添付ファイルのプロパティ | 67 |
| | Enterprise Vault のカスタムプロパティ | 68 |
| | ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロ パティ | 69 |
| | SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ | 69 |
| | Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカス タムプロパティ | 70 |
| | ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ | 71 |
| | Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ | 72 |

| | | |
|------|--|-----|
| 付録 B | 分類に使う PowerShell cmdlet | 73 |
| | cmdlet の分類について | 73 |
| | Disable-EVClassification | 74 |
| | Get-EVClassificationFCITags | 75 |
| | Get-EVClassificationPolicy | 77 |
| | Get-EVClassificationStatus | 79 |
| | Get-EVClassificationTestMode | 80 |
| | Import-EVClassificationFCIRules | 81 |
| | New-EVClassificationPolicy | 84 |
| | Publish-EVClassificationFCIRules | 89 |
| | Remove-EVClassificationPolicy | 92 |
| | Set-EVClassificationPolicy | 93 |
| | Set-EVClassificationTestMode | 96 |
| 付録 C | 監視とトラブルシューティング | 98 |
| | 監査 | 98 |
| | 分類パフォーマンスカウンタの確認 | 99 |
| | 分類のトラブルシューティング | 100 |

本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

このマニュアルについて

このマニュアルは、Enterprise Vault 12 で初めて導入された分類機能について説明します。この機能は、最近の Windows Server エディションに組み込まれている FCI (File Classification Infrastructure) を使用して、新規と既存のすべてのアーカイブコンテンツに分類値を割り当てます。分類機能を使って必要な値をアイテムに割り当てると、Enterprise Vault による検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーは検索やレビューを実行するときにこの値を使ってアイテムをフィルタ処理できます。

特定の保持カテゴリをアイテムに適用すると、分類機能を使ってアイテムの保持を制御することもできます。ユーザーがアイテムを手動で削除したり、Enterprise Vault がアイテムを自動的に失効したりするとアイテムが再分類されて安全に削除できます。

[表 1-1](#) に、このマニュアルのコンテンツの概略を示します。

表 1-1 このマニュアルのコンテンツ

| 章 | 機能 |
|---|--|
| 1 | このマニュアルの紹介と Enterprise Vault に関する詳しい情報の入手方法について説明します。 |
| 2 | 分類機能の概要と設定手順について説明します。 p.12 の「 分類について 」を参照してください。 |

| 章 | 機能 |
|---|--|
| 3 | Enterprise Vault が各アイテムの分類値を格納する分類プロパティの設定プロセスを順を追って説明します。 p.19 の「Enterprise Vault 分類プロパティについて」 を参照してください。 |
| 4 | アイテムが特定の分類値を獲得するために満たす必要がある基準を定義するルールの設定方法について説明します。 p.31 の「分類ルールについて」 を参照してください。 |
| 5 | 実装する分類機能の範囲を指定するポリシーの定義方法について説明します。この章では、定義したポリシーを1つ以上の保持計画と関連付ける方法についても説明します。保持計画は分類を実行する Enterprise Vault アーカイブに適用できます。 p.44 の「分類ポリシーについて」 を参照してください。 |
| 6 | 分類を実行に移す前に分類機能をテストする方法のアウトラインを示します。 p.53 の「分類テストモードについて」 を参照してください。 |
| 7 | Enterprise Vault サイト全体に必要な分類設定を公開する方法を示します。 p.57 の「分類のプロパティとルールの公開方法」 を参照してください。 |
| 8 | Enterprise Vault のアイテムの分類方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなスマートパーティションにアーカイブする方法について説明します。 p.59 の「スマートパーティションについて」 を参照してください。 |

このマニュアルは、管理コンソールや PowerShell 管理シェルスなどで File Server Resource Manager などの Microsoft 社の技術を使う複数の Enterprise Vault 機能に関する知識があることを想定しています。

FCI 分類とその他の分類方法との関係

Enterprise Vault 12.3 には、新規および既存のすべてのアーカイブコンテンツを分類するための、次世代の Veritas 情報分類子エンジンが含まれています。この新しいエンジンは、高度な近接検索、正規表現、デフォルトキーワードやパターン、チェックサム検証を通じて、多面的な分類を実行できます。信頼度やヒット率によって内容を分類することもできます。

この新しい Veritas 情報分類子は、FCI 分類への追加エンジンとして、あるいは代替エンジンとしてお使いいただけます。ただし、Veritas 情報分類子の分類オプションは、FCI 分類よりも洗練されているだけでなく簡単に実装できます。そのため、アーカイブコンテンツの分類には Veritas 情報分類子を使用することを推奨します。

Veritas 情報分類子について詳しくは、『Veritas 情報分類子を使用した分類』マニュアルを参照してください。このマニュアルでは、Veritas 情報分類子で使用するために FCI 分類ルールを変換する方法も説明しています。

Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-2 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-2 Enterprise Vault マニュアルセット

| マニュアル | コメント |
|--------------------------------------|--|
| Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ | <p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。 |
| 導入および計画 | Enterprise Vault の機能の概要を説明します。 |
| Deployment Scanner | Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。 |
| インストールおよび設定 | Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。 |
| アップグレードの手順 | 既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。 |
| Domino サーバーアーカイブの設定 | Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。 |
| Exchange Server アーカイブの設定 | Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。 |
| ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定 | ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。 |
| IMAP の設定 | Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。 |
| SharePoint Server アーカイブの設定 | Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。 |
| Skype for Business のアーカイブの設定 | Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。 |

| マニュアル | コメント |
|--|---|
| SMTP アーカイブの設定 | 他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。 |
| Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類 | Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。 |
| Veritas Information Classifier を使用した分類 | Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。 |
| 管理者ガイド | 日常的な管理を実行する方法を説明します。 |
| PowerShell コマンドレット | Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。 |
| 監査 | Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。 |
| バックアップと回復 | システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。 |
| レポート | Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。 |
| NSF 移行 | Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。 |
| PST 移行 | Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。 |
| ユーティリティ | Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。 |
| レジストリ値 | レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。 |
| 管理コンソールのヘルプ | Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。 |
| Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ | Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。 |

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

はじめに

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類について](#)
- [分類設定手順の概要](#)
- [分類の前提条件](#)
- [役割ベースの管理 \(RBA\) と分類機能](#)
- [Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法](#)

分類について

Enterprise Vault 分類機能は Microsoft の File Classification Infrastructure と組み合わせることによって、分類の値を新しいすべてのアーカイブ済みの内容および既存のアーカイブ済みの内容のメタデータプロパティに割り当てます。File Classification Infrastructure は、最近の Windows Server Edition に組み込まれている分類フレームワークです。File Classification Infrastructure は、File Server Resource Manager インターフェースを介して制御します。

ルール

File Server Resource Manager は、検索対象と一致アイテムに割り当てるプロパティ値を指定する分類ルールを定義するための手段を提供します。たとえば、ルールを使って、内容にクレジットカード番号が含まれているアイテムを検出し、“PII” (“personally identifiable information”) のプロパティ値を割り当てます。

分類機能によって分類プロパティ値がアイテムに適用されたら、Enterprise Vault による検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーは検索やレビューを実行するときにこの値を使ってアイテムをフィルタ処理できます。

Enterprise Vault には、独自のルールセットを作成するための開始点として使うことのできるサンプルの分類ルールが用意されています。ほとんどの例で、これらのルールは、

アイテム内の文字列と正規表現パターンを検索します。より高度な機能では、サードパーティの分類プロバイダを **File Classification Infrastructure** に統合させることができます。

メモ: サンプルルールはテスト用であり、稼働中の環境で必要な結果が得られないことがあります。

ポリシー

1 つ以上の分類ポリシーを定義することで、独自の **Enterprise Vault** サイトで実装する分類オプションを選択します。ポリシーオプションを使うと、次の操作を実行できます。

- 分類用のアイテムを送信し、この **Enterprise Vault** がインデックス作成とアーカイブを行うと同時に結果をタグ付けします。これは、アーカイブボリュームまたはインデックスボリュームのインデックスの再構築を実行することによって、**Enterprise Vault** が関連アイテムを分類する場合にも行われます。（再構築中も古いインデックスボリュームは引き続き検索可能であるため、このプロセスはユーザーに影響しません。）
- ユーザーがアイテムを手動で削除した場合、**Enterprise Vault** によってアイテムが自動的に期限切れになった場合、または **Enterprise Vault** によってアイテムのインデックス作成とアーカイブが行われた場合に、これらのアイテムの保持カテゴリを更新します。

必要なポリシーオプションを選択したら、分類ポリシーに保持計画に関連付けて、その計画を 1 つ以上の **Enterprise Vault** アーカイブに適用します。

テストモード

分類インフラストラクチャを有効にする前に、それをテストモードで実行して問題を特定し、解決できます。分類はテストモードでも発生しますが、**Enterprise Vault** はアーカイブ済みアイテムに変更を適用する代わりに、分類プロパティ、その値、結果の保持の変更をレポートに書き込みます。

分類設定手順の概要

表 2-1 に、**Enterprise Vault** で分類を設定するための一連の手順を示します。

表 2-1 設定手順

| 手順 | 処理 | 関連情報 |
|------|---|---|
| 手順 1 | サイト内にある Enterprise Vault ストレージサーバーが分類の必要条件を満たしていることを確認します。 | p.14 の「 分類の前提条件 」を参照してください。 |

| 手順 | 処理 | 関連情報 |
|-------|--|--|
| 手順 2 | 適切なキャッシュ場所が各 Enterprise Vault ストレージサーバー 上にあることを確認します。 | p.15 の「Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法」を参照してください。 |
| 手順 3 | Enterprise Vault が分類値を格納するアイテムのメタデータプロパティについてよく理解します。 | p.19 の「Enterprise Vault 分類プロパティについて」を参照してください。 |
| 手順 4 | 組み込み分類プロパティである Folder Usage が正しく設定されていることを確認します。 | p.23 の「[フォルダの使用法] 分類プロパティの確認」を参照してください。 |
| 手順 5 | 必要な分類プロパティ値を設定します。 | p.27 の「Enterprise Vault 分類プロパティの新しい値の設定」を参照してください。 |
| 手順 6 | 必要な分類ルールを定義します。 | p.31 の「分類ルールについて」を参照してください。 |
| 手順 7 | 1 つ以上の分類ポリシーを設定します。 | p.44 の「分類ポリシーについて」を参照してください。 |
| 手順 8 | 分類ポリシーに保持計画を関連付けて、アーカイブにこれらのポリシーを割り当てます。 | p.48 の「分類プロパティと保持計画の関連付け」を参照してください。 |
| 手順 9 | テストモードでポリシーを実行して分類ルールを検証します。 | p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。 |
| 手順 10 | 他の Enterprise Vault ストレージサーバーに分類のプロパティとルールを公開します。 | p.57 の「分類のプロパティとルールの公開方法」を参照してください。 |
| 手順 11 | Enterprise Vault のアイテムの分類方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなパーティションにアーカイブできるように、スマートパーティションを設定することを検討します。 | p.59 の「スマートパーティションについて」を参照してください。 |

分類の前提条件

Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類を実装するには、サイト内の全 Enterprise Vault ストレージサーバーで、次のものがすべて必要です。

- Windows Server 2012 または 2012 R2。
パフォーマンスの理由から、Windows Server 2012 オリジナルリリースではなく、Windows Server 2012 R2 をすべての Enterprise Vault サーバーで実行することを強く推奨します。

- **File Server Resource Manager** サービスと関連のツール機能 (fsrm.msc)。
これらのコンポーネントを使用すると、**Windows FCI** を管理できます。そのため、分類ルールとプロパティの作成と編集を行うことができます。
Enterprise Vault Install Launcher では、「マイシステムの準備」機能により **File Server Resource Manager** サービスとツールが自動的に有効化されます。
- **Microsoft Data Classification Toolkit**。
Enterprise Vault サイト全体で分類プロパティとルールを配備するには、このツールキットと連携させることができる **Enterprise Vault PowerShell cmdlet** を使うことができます。**Microsoft** 社の **Web** サイトの次のページからダウンロードできます。
<https://msdn.microsoft.com/library/hh204743.aspx>

Veritas Information Classifiee を使用した分類では、**Enterprise Vault** をインストールする際に、必要なコンポーネントがすべてインストールされます。

Microsoft FCI または **Veritas Information Classifier** を使用して分類を管理するには、**Enterprise Vault** の保持機能のライセンスも必要です。保持機能のライセンスをインストールする必要がある場合、または既存のライセンスが期限切れになった場合、分類はテストモードで動作します。

役割ベースの管理(RBA)と分類機能

Enterprise Vault 分類機能を管理するには、**Vault Administration Console** の次の RBA ロールが 1 つ以上必要です。

- | | |
|--------------------|------------------|
| ■ Domino 管理者 | ■ メイン管理者 |
| ■ Exchange 管理者 | ■ PST 管理者 |
| ■ 拡張コンテンツプロバイダの管理者 | ■ SharePoint 管理者 |
| ■ ファイルサーバー管理者 | ■ SMTP 管理者 |
| ■ NSF 管理者 | |

RBA について詳しくは、『**Veritas Enterprise Vault 管理者ガイド**』を参照してください。

Enterprise Vault が分類のために送信するアイテムをキャッシュする方法

分類処理の開始時に、**Enterprise Vault** は分類対象の各アイテムの平文バージョンをストレージサーバーの所定のキャッシュ場所に格納します。次に、**Enterprise Vault** は FCI (File Classification Infrastructure) を呼び出して、分類を即座に実行し、分類プロパティとその値を取得します。デフォルトで、**Enterprise Vault** は分類が完了した直後にキャッシュフォルダから平文ファイルを削除しますが、この動作は設定可能です。

p.18 の「[キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成](#)」を参照してください。

各平文ファイルの名前は次の形式を持ちます。

```
EV$ + transaction_id + ~ + random_number + .txt
```

次に例を示します。

```
EV$60C32915D60F4FDFD748EE048DDAFCF1~01462D48.txt
```

各ファイルのコンテンツは複数のプロパティと Enterprise Vault がインデックス付けしたアイテムに関連付けられた値 (**name:value** という形式) から成ります。たとえば、分類ファイルの典型的な例を次に示します。

```
rtcd:mike_smith
rtea:mike_smith@yourcompany.com
audn:Sean Gallagher
auea:sean_gallagher@yourcompany.com
msgc:IPM.Document.Outlook.File.eml.15
impo:1
sens:0
prio:0
size:19
dtyp:EML
natc:0
```

インデックス付きアイテムには多数のプロパティがありますが、分類の対象になるのはサブセットのみです。サブセットは Enterprise Vault が平文ファイルで格納し、検索対象の分類ルールを設定できるプロパティと関連付けられた値です。

p.63 の「[Enterprise Vault のプロパティについて](#)」を参照してください。

分類ファイルサイズの制限

デフォルトでは、FCI (File Classification Infrastructure) は最大 25 MB のファイルを分類できます。テキストファイルがこの制限を超えると Enterprise Vault はファイルをおよそ 25 MB に自動的に分割して、分割したファイルセット全体で分類を続行します。ファイルの分割位置を決定するために Enterprise Vault は次の処理を実行します。

- テキストファイルの単一行が原因でファイルが制限を超える場合には、Enterprise Vault はその行を新しいテキストファイルに入れます。たとえば、**cont** プロパティ行にアイテムの内容を保持し、通常はこの行をテキストファイルの行の最大長にします。この行とこの行以降に制限を超えた行がある場合には Enterprise Vault はこの行の前でファイルを直ちに分割して **cont** プロパティの新しいファイルを作成します。
- それでも単一行の内容が制限を超える場合には Enterprise Vault は制限に達した位置から前方向に検索し、空白文字を見つけてその位置で内容を分割します。300 文字以内に空白文字が見つからなかった場合には Enterprise Vault は制限に達した位置で正確にファイルを分割します。

25 MB の制限は、レジストリエントリの `MaxTextFilterBytes` を設定することで変更できます。このレジストリエントリについては、Microsoft Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://msdn.microsoft.com/library/ms692103.aspx>

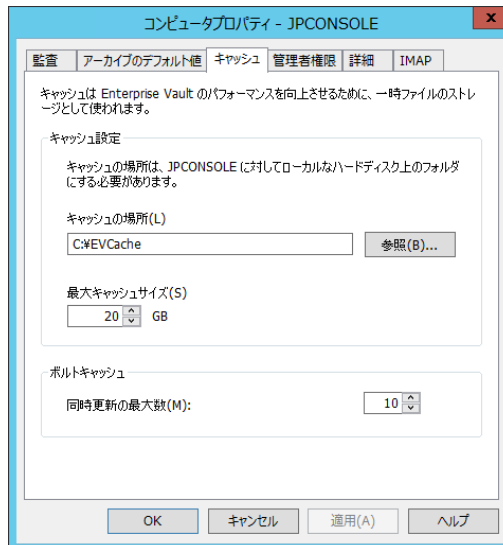
分類ルールが複雑で、ルールのさまざまな部分がルールセットのさまざまなファイルに一致する場合はこの制限値を増やすと便利です。たとえば、*fraud* と *corruption* という 2 つの単語を検索するルールで、1 つのテキストファイルで 1 つ目の単語、別のテキストファイルで 2 つ目の単語を検索する場合などです。

Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュ場所の確認

分類を実行する各ストレージサーバーで、Enterprise Vault は分類対象アイテムそれぞれの平文の複製を所定のキャッシュ場所のサブフォルダに格納します。この場所を正しく設定していることを確認すると安全です。

Enterprise Vault ストレージサーバーのキャッシュの場所を確認するには

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー] コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 Enterprise Vault [サーバー] コンテナを展開します。
- 3 適切なサーバーを右クリックしてショートカットメニューの [プロパティ] を選択します。
- 4 [コンピュータプロパティ] ダイアログボックスで、[キャッシュ] タブをクリックします。
- 5 [キャッシュの場所] に、適切なローカルパスを指定します。



分類機能により、指定したキャッシュの場所のサブフォルダ (たとえば、`D:\¥EVStorage¥Cache¥Classification`) `Classification` に分類したファイルを格納します。

最適なパフォーマンスを確保するためには、ローカルに接続された高速ストレージでキャッシュフォルダを作成することが重要です。オペレーティングシステムドライブ以外のドライブにフォルダを作成することを推奨します。

キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成

Enterprise Vault がキャッシュフォルダに保存するプレーンテキストファイルには重要なデータが含まれている可能性があるため、デフォルトで Enterprise Vault はそれらを最初に削除します。これらのファイルの中身について、Enterprise Vault が期待どおりに分類しないなどのために調べる必要がある場合に、自動的に削除されないように構成できます。

キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するよう Enterprise Vault を構成するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー] コンテナを展開します。
- 3 設定を変更するアーカイブを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 4 [コンピュータプロパティ] ダイアログボックスで、[詳細設定] タブをクリックします。
- 5 [一覧表示する設定の種類] リストで、[ストレージ] を選択します。
- 6 [分類ファイルの維持] をダブルクリックして、[有効] に設定します。
- 7 [OK] をクリックして変更内容を保存します。

この設定を後でオフにすると、サーバーでストレージサービスを再起動するまで Enterprise Vault が以前にキャッシュフォルダに入れたファイルがそのままになります。ただし、すぐに破棄したい場合は手動で削除できます。

分類プロパティの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault 分類プロパティについて](#)
- [手動での Enterprise Vault 分類プロパティの設定](#)
- [\[フォルダの使用法\] 分類プロパティの確認](#)
- [分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用](#)
- [Enterprise Vault 分類プロパティの新しい値の設定](#)
- [保持カテゴリの設定に関する注意事項](#)

Enterprise Vault 分類プロパティについて

アイテムが定義した分類ルールに一致する場合は、Enterprise Vault でその事実がアイテムのメタデータプロパティに記録されます。選択したプロパティと Enterprise Vault が割り当てた値で Enterprise Vault がアイテムに対して実行する処理が決まります。表 3-1 での説明のとおり、Enterprise Vault は 4 つの事前定義済みプロパティに保存されている分類値を処理できます。

注意: Enterprise Vault は、4 つの事前定義済みプロパティのみに分類値を割り当てることができます。ファイルサーバーリソースマネージャで設定できるその他のプロパティに割り当ててすることはできません。

表 3-1 Enterprise Vault 分類プロパティ

| プロパティ | 説明 |
|-----------------|---|
| evtag.category | <p>このプロパティは、Enterprise Vault にアイテムを追加するとアイテムに 1 つ以上のカテゴリ値を割り当てます。たとえば、アイテムの内容でクレジットカード番号を確認し、該当するアイテムにカテゴリ値「PII」（「personally identifiable information」）を割り当てる分類ルールの例もあります。</p> <p>Enterprise Vault による検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションに割り当て済みのプロパティ値を検索できます。</p> |
| evtag.exclusion | <p>Compliance Accelerator を使う環境では、Enterprise Vault がこのプロパティで分類したアイテムを無視するようにそのアプリケーションのランダムサンプリング機能に指示します（ただし、必要に応じて Compliance Accelerator ユーザーは分類されたアイテムを検索してレビューセットに追加できます）。</p> <p>たとえば、分類ルールの例でこのプロパティを使って自動生成されたニュースフィード、寄付勧誘、その他の重要でないアイテムを Compliance Accelerator レビューセットから除外します。</p> <p>Enterprise Vault による検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションに割り当て済みのプロパティ値を検索できます。</p> |
| evtag.inclusion | <p>Compliance Accelerator を使う環境では、Enterprise Vault がこのプロパティで分類したアイテムをキャプチャするようにそのアプリケーションのランダムサンプリング機能に指示します。最良の結果を導くには、このプロパティを選択して使って Compliance Accelerator がランダムサンプリングで過剰な数のアイテムを検出しないようにします。</p> <p>たとえば、分類ルールの例でこのプロパティを使って企業秘密アイテムと金融データまたは法的データを含むアイテムを Compliance Accelerator レビューセットに含めます。</p> <p>Enterprise Vault による検索、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator などのアプリケーションに割り当て済みのプロパティ値を検索できます。</p> |

| プロパティ | 説明 |
|------------------|---|
| evaction.discard | <p>アイテムのこのプロパティに保持カテゴリの名前を割り当てると、削除するアイテムにマーク付けできます。たとえば、分類ルールの一例ではこのプロパティを使って自動化されたオフィス不在メッセージを削除します。</p> <p>Enterprise Vault がこのようなアイテムを扱う方法はアイテムを分類する時点によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インデックス付けアイテムが Enterprise Vault でインデックスを付けられたときに分類される場合、Enterprise Vault によってアイテムの分類カテゴリが evaction.discard プロパティ値に設定されます。アイテムが検索されなくなる可能性があります、r一定の日数の間はアイテムを回復できます。これは、Enterprise Vault サイトのアーカイブ設定でユーザーが削除したアイテムの回復を無効に設定している場合でも適用されます。 ■ 自動期限切れ 保持期間が切れているためにアイテムが分類される場合、Enterprise Vault によってただちにアイテムが削除されます。 ■ ユーザーによる削除 ユーザーがアイテムを削除しようとしたためにアイテムを分類する場合は、Enterprise Vault サイトのアーカイブ設定に応じてアイテムをすぐに削除するか、または一時的に復旧できます。 <p>このプロパティによって、evtag.inclusion などのその他の分類プロパティが上書きされます。そのため、1 つの分類ルールで削除するルールがマークされている場合、2 番目のルールによって Compliance Accelerator レビューセットに含めるようにアイテムにタグが付けられている場合でも削除されます。</p> <p>たとえば、リーガルホールドのため削除できないアイテムもあります。この場合は、分類機能がアイテムの保持カテゴリを更新しますがアイテムは削除されません。</p> |

タイプ Multiple Choice List の 4 つすべてのプロパティ。これらのプロパティには複数の値を割り当てることができます。たとえば、分類ルールの例によって処理された電子メールには evtag.category プロパティに 2 つの値 (「多くの添付ファイル」と「個人」) が割り当てられ、10 個以上の添付ファイルがあることや作成者が「個人」の機密度を割り当てていることが示されます。evaction.discard プロパティも Multiple Choice List プロパティですが、多少異なり、Enterprise Vault では割り当てられた最初の値のみが使われます。

手動での Enterprise Vault 分類プロパティの設定

ルールセットの例をインポートすると、Enterprise Vault は 4 つの Enterprise Vault 分類プロパティを自動的に設定します。

p.35 の「[サンプルルールセットのインポート](#)」を参照してください。

ルールセットをインポートしなくても手動でプロパティを設定できます。

手動で Enterprise Vault 分類プロパティを設定するには

- 1 File Server Resource Manager の左ペインで、[分類管理]コンテナを展開します。
- 2 [分類プロパティ]ノードを右クリックして[ローカルプロパティの作成]を選択します。
[ローカル分類プロパティの作成]ダイアログボックスが表示されます。

ローカル分類プロパティの作成

全般

名前(N):
evtag.category

説明(D):
The evtag.category property will be added as indexed attributes to items when they are ingested into Enterprise Vault

プロパティの種類(T):
複数の選択リスト

固定値のリストです。1つのプロパティに一度に複数の値を割り当てることができます。分類中、またはファイル内容から複数の値をまとめる場合、選択したすべての項目を含む値が使用されます。

| 値 | 説明 |
|---|----|
| * | |

挿入(I)
削除(D)

OK キャンセル

- 3 新しいプロパティの名前と説明を入力します。
必須の名前と推奨する説明は次のとおりです。

| | |
|-----------------|--|
| evtag.category | Enterprise Vault にアイテムを追加するときにそのアイテムに 1 つ以上のカテゴリを割り当てます。このプロパティの値は検索可能で、取り込むことができます。 |
| evtag.exclusion | Compliance Accelerator がこのプロパティを含むアイテムをサンプリングしないようにします。このプロパティの値は検索可能で、取り込むことができます。 |
| evtag.inclusion | Compliance Accelerator はこのプロパティを含むアイテムをサンプリングする必要があります。このプロパティの値は検索可能で、取り込むことができます。 |

`evaction.discard` 保持カテゴリの名前をプロパティに割り当てるとアイテムに削除のマークを付けることができます。

注意: Enterprise Vault は、4 つのプロパティのみに分類値を割り当てることができます。ファイルサーバーリソースマネージャで設定できるその他のプロパティに割り当ててはできません。

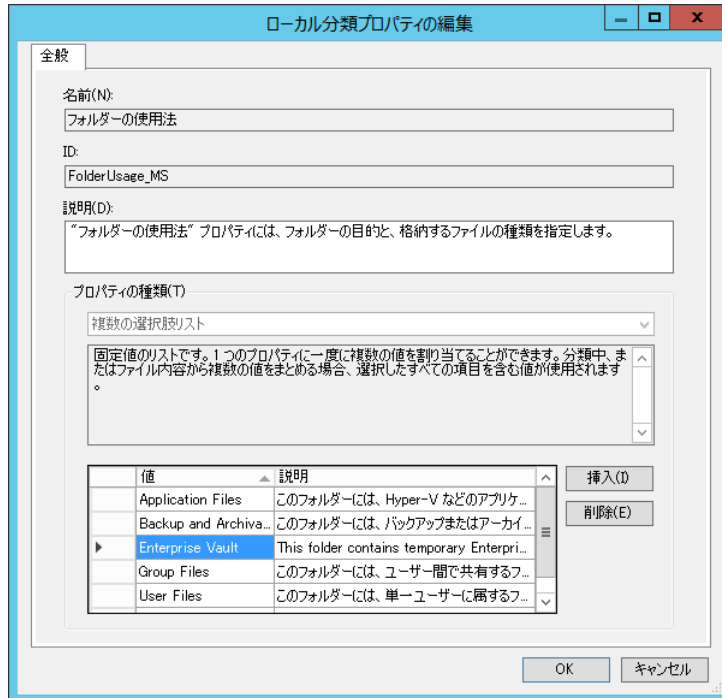
- 4 プロパティの種類を **Multiple Choice List** に設定します。
- 5 分類ルールによってプロパティに割り当てることができる値を追加します。
- 6 [OK]をクリックして分類プロパティを保存します。
- 7 他の Enterprise Vault 分類プロパティそれぞれに対してステップ 2 から 6 を繰り返します。

[フォルダの使用法] 分類プロパティの確認

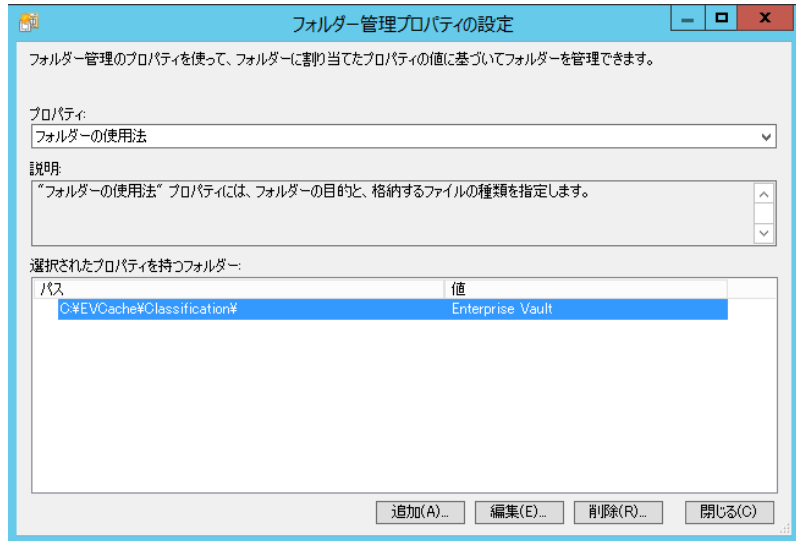
[フォルダの使用法]プロパティは、ローカルサーバーの特定のフォルダの目的とアイテムに格納しているファイルの種類を **File Server Resource Manager** に伝える組み込み分類プロパティです。Enterprise Vault をインストールしてストレージサービスを開始すると、分類キャッシュフォルダの場所を指定するエントリが[フォルダの使用法]リストに自動的に追加されます。このエントリが正しいことを確認するには、次の手順に従います。

[フォルダの使用法] 分類プロパティを確認するには

- 1 File Server Resource Manager の左ペインで、[分類管理]コンテナを展開します。
- 2 [分類プロパティ]ノードをクリックすると、右側に設定済みのプロパティの一覧が表示されます。
- 3 [フォルダの使用法]プロパティを右クリックして[ローカルプロパティの編集]を選択します。
[ローカル分類プロパティの編集]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ダイアログボックスの下部にある一覧を確認します。一覧に[Enterprise Vault]という値がない場合は追加する必要があります。



- 5 [OK]をクリックし、変更内容を保存してダイアログボックスを閉じます。
- 6 File Server Resource Manager の右側にある[操作]ペインで[フォルダ管理プロパティの設定]をクリックします。
- 7 [プロパティ]リストで[フォルダの使用方法]を選択します。
- 8 [選択したプロパティが格納されているフォルダ]領域で、[Enterprise Vault]という値が表示され、サーバーの Enterprise Vault のキャッシュ場所にある Classification サブフォルダにマップされていることを確認します。次に例を示します。



- 9 必要に応じて、[Enterprise Vault]という値と関連付けられたフォルダパスを追加します。

分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用

次の条件の両方が満たされると、Enterprise Vault はアイテムが分類ルールに一致するときにそのアイテムの保持カテゴリを更新します。

- アイテムの保持カテゴリを設定する分類ポリシーを設定している。
p.44 の「[分類ポリシーについて](#)」を参照してください。
- ルールによってアイテムに割り当てられる分類プロパティ値が既存の保持カテゴリの名前に一致する。たとえば、プロパティ値と保持カテゴリの両方の名前が「Financial」である場合は、アイテムの分類時に Enterprise Vault によって割り当てられるのは保持カテゴリの方です。

保持カテゴリの作成方法について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

アイテムが複数の分類ルールに一致するため、これらのすべての分類ルールが、そのアイテムへの保持カテゴリの割り当てを巡って競合する場合があります。この場合、分類機能で次のように優先する保持カテゴリが選択されます。

- **Capstone** または同等のレコード管理システムを実装するために、保持カテゴリでアイテムをレコードとしてマーク付けすると、アイテムをレコードとしてマーク付けしていない他の保持カテゴリよりも優先されます。アイテムを永続レコードとしてマーク付けする保持カテゴリは、一時レコードとしてマーク付けする保持カテゴリよりも優先し

す。また、それらは他のあらゆる種類のレコードとしてアイテムをマーク付けする保持カテゴリよりも優先します。

レコード管理での Enterprise Vault の使用について詳しくは、『Veritas Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

- 競合する保持カテゴリでアイテムの保持期間をまったく同じにする場合は、最初に作成した保持カテゴリが優先されます。たとえば、保持カテゴリ「Customer Accounts」および「Legal」の両方の保持期間が 5 年であるとします。「Legal」カテゴリを作成する前に「Customer Accounts」カテゴリを作成していた場合、「Customer Accounts」カテゴリを割り当てるルールによって「Legal」カテゴリを割り当てるルールが上書きされます。
- 保持期間が異なる場合は、デフォルトの動作として、最も長い保持期間がアイテムの保持カテゴリに割り当てられます。たとえば、通常、アイテムを 7 年間保持する保持カテゴリによって 5 年間保持する保持カテゴリが上書きされます。ただし、この動作を変更して、最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てることができます。

最短の保持期間を持つ保持カテゴリを割り当てるように分類ポリシーを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー] コンテナ、[保持と分類] コンテナの順に展開します。
- 3 [分類] コンテナをクリックします。
- 4 右ペインで変更する分類ポリシーを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [詳細] タブで、[保持カテゴリの選択] オプションを [最短] に設定します。

分類ポリシープロパティ - デフォルトの分類ポリシー

全般 設定値 詳細 対象

一覧表示する設定の種類(L): 分類設定

| 設定値 | 値 |
|-----------|----|
| 保持カテゴリの選択 | 最短 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

すべてをリセット(R) 修正(M)

説明
分類タグが複数の保持カテゴリに一致するときに使う保持カテゴリ。Enterprise Vault は、この設定値によって最長または最短の期間にわたりアイテムを保持する保持カテゴリを使います。[RetentionCategorySelection]

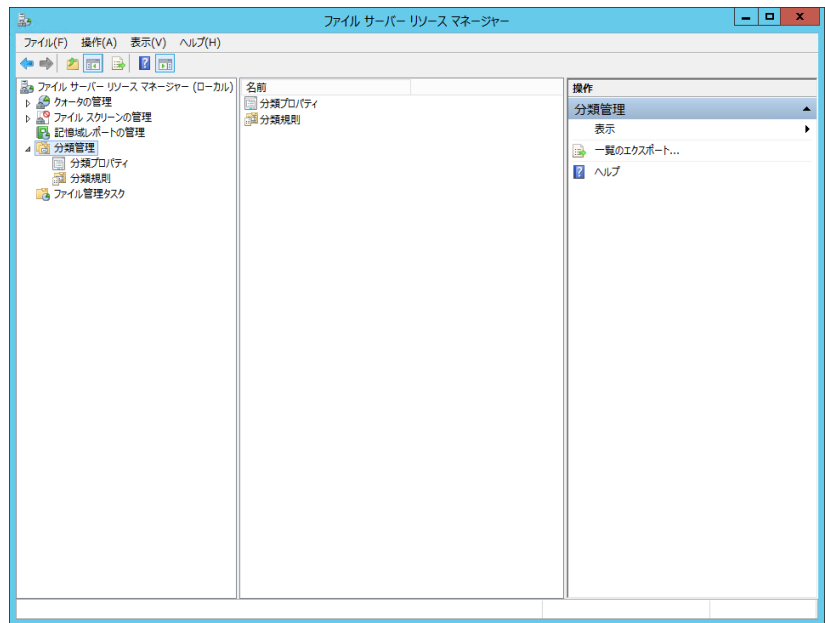
OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

Enterprise Vault 分類プロパティの新しい値の設定

Enterprise Vault 分類プロパティに対して分類ルールに割り当てさせる値の範囲を分類プロパティが受け取るように、そのプロパティを設定する必要があります。たとえば、アイテムで不適切な言語を検索するルールでは、一致するアイテムの `evtag.category` に「不敬」の値を割り当てる必要があります。この処理が実行されるには、`evtag.category` プロパティの可能な値として「不敬」を追加する必要があります。

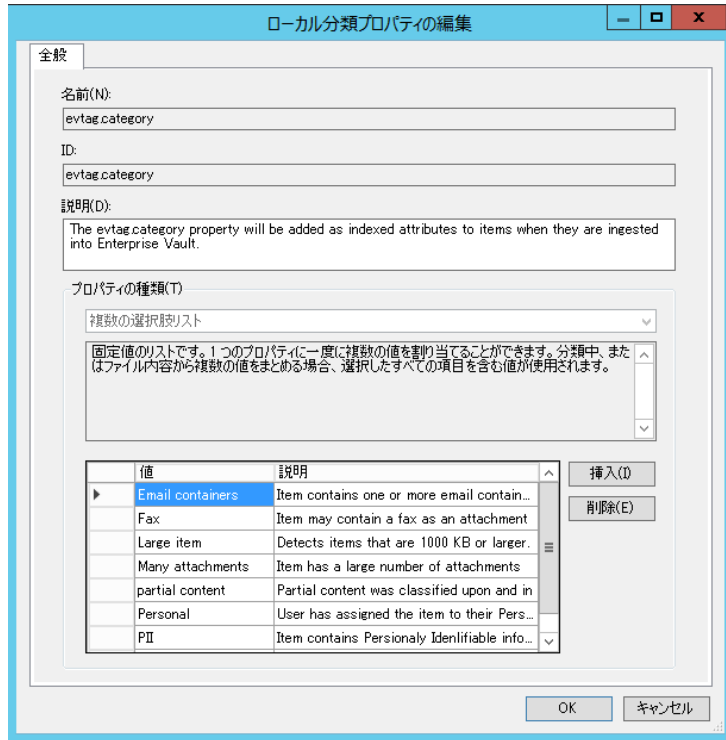
Enterprise Vault 分類プロパティの新しい値を設定する方法

- 1 File Server Resource Manager の左ペインで、[分類管理]コンテナを展開します。



- 2 [分類プロパティ]ノードをクリックして、1 つ以上の新しい値を設定する Enterprise Vault プロパティをダブルクリックします。

[ローカル分類プロパティの編集]ダイアログボックスが表示されます。たとえば、`evtag.category` プロパティの場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。



- 3 [挿入]をクリックして、新しい値と説明を追加します。不要な値を削除するには、その値をクリックして、[削除]をクリックします。1 つ以上の分類ルールで使用中の値は削除できません。
- 4 [OK]をクリックして変更内容を保存します。

保持カテゴリの設定に関する注意事項

分類機能によってアイテムの保持カテゴリを設定する場合、次の重要な点に注意してください。

- 保持カテゴリを設定して、そのカテゴリが割り当てられたアイテムをユーザーが手動で削除できないようにすると想定します。または、保持カテゴリを設定して、そのカテゴリを持つ期限切れのアイテムの自動削除を防ぐと想定します。

ユーザーがアイテムを削除する、または **Enterprise Vault** がその期限切れを実行するときに、分類機能によってそのアイテムにこのカテゴリが割り当てられる場合、その処理が遮断されます。

- デフォルトでは、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを変更する操作を実行したときに、**Enterprise Vault** は保持カテゴリを更新します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に **Enterprise Vault Search** でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。ただし、分類ポリシーを定義するときに、ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにすることができます。

p.44 の「[分類ポリシーについて](#)」を参照してください。

ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする分類ポリシーを使わない場合は、[サイトプロパティ]ダイアログボックスの[アーカイブの設定]タブで選択したオプションに従って更新が続行されます。

- **Discovery Accelerator** などのアプリケーションでアイテムをリーガルホールドにした場合は、このアイテムをユーザーが削除しようとしたり **Enterprise Vault** が期限切れにしようとする **Enterprise Vault** はアイテムを分類するために送信しません。そのため、分類機能はこのようなアイテムの保持カテゴリを更新できません。ただし、アイテムにインデックス付けしてアーカイブすると分類機能はこのようなアイテムの保持カテゴリを更新できます。

- **Enterprise Vault** が **WORM** ストレージデバイスにアーカイブしたアイテムを分類機能で分類するときに、アイテムの有効期限を変更する新しい保持カテゴリが適用される場合があります。この場合、**Enterprise Vault** は 2 つの日付の遅い方でアイテムを期限切れにします。

たとえば、分類機能によって遅い方の有効期限を設定する保持カテゴリが適用される場合、**Enterprise Vault** はこの新しい、遅い方の日付を適用します。一方、新しい保持カテゴリによって早い方の有効期限が設定される場合、**Enterprise Vault** では元の遅い方の日付が採用されます。

分類ルールの設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類ルールについて](#)
- [分類ルールの例について](#)
- [サンプルルールセットのインポート](#)
- [分類ルールの作成または変更](#)
- [Veritas 情報分類子の方法を使うルールのサポート対象構成パラメータ](#)

分類ルールについて

分類ルールでは、アイテムが特定の分類値を獲得するために一致する必要がある基準を定義します。たとえば、送信者によって重要でないとマーク付けされている電子メールを検索するルールでは、検出されたアイテムに値「低重要度」が割り当てられます。

Enterprise Vault には分類ルール例のセットが用意されています。このセットを **File Server Resource Manager** にインポートすることも、このセットを基に独自のルールセットを作成することもできます。最初から独自のルールを作成することもできます。

分類ルールの例について

メモ: サンプルルールはテスト用であり、稼働中の環境で必要な結果が得られないことがあります。

ルールの例は、**Enterprise Vault** プログラムフォルダの **Classification** サブフォルダ (たとえば `C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Classification\Example Rules.xml`) にある `Example Rules.xml` という単一の **XML** ファイルに記載されています。

ルールの例には次の共通機能が含まれます。

- 「Enterprise Vault」の範囲があります。Enterprise Vault 分類キャッシュフォルダでのみアイテムのみを分類します。
p.23 の「[\[フォルダの使用法\] 分類プロパティの確認](#)」を参照してください。
- Veritas 情報分類子を使ってアイテムで文字列と正規表現パターンを検索します。
p.36 の「[分類ルールの作成または変更](#)」を参照してください。
- ルールによって一致が見つかり、その一致アイテムの 4 つの Enterprise Vault 分類プロパティ (evtag.category、evtag.exclusion、evtag.inclusion、evaction.discard) のいずれかに適切な値が割り当てられます。
p.19 の「[Enterprise Vault 分類プロパティについて](#)」を参照してください。
たとえば、一部のルールは、クレジットカード番号の形式の文字列を検索します。ルールによってそのような文字列を含むアイテムが検出されると、そのアイテムの evtag.category プロパティに値「PII」が割り当てられ、そのアイテムが個人識別情報を含んでいることが示されます。

表 4-1 に、ルール例セットの分類ルールを示します。

表 4-1 分類ルールの例

| ルール名 | 説明 | 使われるプロパティ | 割り当てられる値 |
|----------------------|--|------------------|----------------|
| American Express カード | American Express クレジットカードの番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 自動生成されたニュースフィード | 既知のニュースとリサーチプロバイダ (alerts.yahoo.com、cnn.com、news.google.com など) の電子メールドメインからのアイテムを検出します。 | evtag.exclusion | 自動生成 |
| 自動応答 | オフィス不在メッセージを検出します。 | evaction.discard | 「デフォルトの保持カテゴリ」 |
| 寄付勧誘 | 一般的に寄付勧誘に関連する用語や句を含むアイテムを検出します。 | evtag.exclusion | 寄付勧誘 |
| 企業秘密 | Microsoft Outlook で企業秘密としてタグ付けされたアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 企業秘密 |

| ルール名 | 説明 | 使われるプロパティ | 割り当てられる値 |
|---------------|---|-----------------|-----------|
| CPF 番号(ブラジル) | ブラジル CPF 番号と関連の単語または句を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 現在の保持カテゴリの名前 | 分類するために送信されたアイテムで、"1 Month" という Enterprise Vault 保持カテゴリを持つアイテムを検出します。 | evtag.category | 短い保持 |
| 日付範囲 | 指定した日付範囲内に送信されたアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 機密プロジェクト |
| Discover カード | Discover カードのクレジットカード番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 運転免許書(英国) | 英国の運転免許書番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 電子メールコンテナ(添付) | タイプ PST または NSF の添付を含むアイテムを検出します。 | evtag.category | 電子メールコンテナ |
| FAX (添付) | FAX 添付を検出します。 | evtag.category | Fax |
| 金融データ | 一般的に金融取引に関連する用語や句を含むアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 金融 |
| ID カード(ドイツ) | 現在の ID カード番号(2010 年以降ドイツで発行されている番号)を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 大きいアイテム | 1000 KB 以上のアイテムを検出します。 | evtag.category | 大きいアイテム |
| 多くの添付 | 10 以上の添付を含むアイテムを検出します。 | evtag.category | 多くの添付 |
| 法的 | 一般的に法的文書に関連する用語や句を含むアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 法的 |
| 低重要度 | Microsoft Outlook で低重要度としてタグ付けされたアイテムを検出します。 | evtag.exclusion | 低重要度 |

| ルール名 | 説明 | 使われるプロパティ | 割り当てられる値 |
|----------------------|--|-----------------|---------------|
| MasterCard | MasterCard クレジットカード番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 外部ドメインに送信されたメッセージ | 外部受信者に送信されたアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 外部送信 |
| 特定の外部ドメインに送信されたメッセージ | 外部の特定のドメインに送信されたアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 外部送信 |
| 国民保険番号(英国) | 英国の国民保険番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 国際登録識別番号(シンガポール) | シンガポールの国際登録識別番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| 部分的な内容 | Enterprise Vault が分類で(内容が暗号化されていたなどのために)一部の内容しか提供できなかったアイテムを検出します。 | evtag.category | 部分的な内容 |
| 納税者番号(インド) | インドの納税者番号と関連の単語または句を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| Personal | Microsoft Outlook で個人としてタグ付けされたアイテムを検出します。 | evtag.category | Personal |
| 生産性に関わるドキュメント | Microsoft Word または Excel 形式の添付を含むアイテムを検出します。 | evtag.category | 生産性に関わるドキュメント |
| 機密プロジェクトコード名 | 機密性の高いプロパティのユーザー定義コード名を含むアイテムを検出します。 | evtag.inclusion | 機密プロジェクト |
| 社会保障番号(米国) | 米国の社会保障番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |

| ルール名 | 説明 | 使われるプロパティ | 割り当てられる値 |
|------------------|--------------------------------------|----------------|----------|
| VAT/TVA 番号(フランス) | フランスの VAT/TVA 番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| Visa カード | Visa クレジットカード番号を含む可能性のあるアイテムを検出します。 | evtag.category | PII |
| Web リンク | Web リンクを含むアイテムを検出します。 | evtag.category | Web リンク |

サンプルルールセットのインポート

独自の分類ルールの基礎としてサンプルルールセットを使う場合は、選択した Enterprise Vault ストレージサーバーでルールセットを File Server Resource Manager にインポートできます。ルールを適切に設定した後に、環境にあるその他のストレージサーバーに対してそのルールを公開できます。

サンプルルールセットをインポートする方法

- 1 サンプルルールセットファイル(Example Rules.xml)のコピーが手元にあることを確認します。このファイルは、Enterprise Vault プログラムフォルダの Classification サブフォルダにインストールされています。

- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。

PowerShell は Enterprise Vault スナップインを開き、ロードします。cmdlet をシェルで使えるようになりました。

- 3 cmdlet の Import-EVClassificationFCIRules を使ってルールをインポートします。

p.81 の「[Import-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

たとえば、次のように入力します。

```
Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile "c:\Program Files  
(x86)\Enterprise Vault\Classification\Example Rules.xml" -Servers  
localhost
```

この cmdlet はサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスを停止して、分類プロパティとルールをインポートした後にそのサービスを再起動します。

分類ルールの作成または変更

この手順では、**File Server Resource Manager** を使って分類ルールを作成または変更する方法について説明します。各ルールでは、単一の分類プロパティの値を設定します。

注意: ルールが単純であればあるほど、**Enterprise Vault** による一致アイテムの分類処理が速くなります。可能な場合は長すぎる複合ルールを回避します。

分類ルールを作成または変更する方法

1 **File Server Resource Manager** の左ペインで、[分類管理] コンテナを展開します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- 新規ルールを作成するには、[分類ルール] ノードを右クリックして、[分類ルールの作成] をクリックします。
- 既存のルールを変更するには、[分類ルール] ノードをクリックして、ルールをダブルクリックします。

ルールのプロパティを設定できるダイアログボックスが表示されます。

3 [全般] タブで、次の情報を入力します。

- **ルール名** ルールの名前を入力します。
- **[Enabled]**。このルールは[有効化] ボックスにチェックマークを付けた場合にのみ適用されます。ルールを無効にするには、このボックスのチェックマークをはずします。
- **[説明]**。このルールの説明 (省略可能) を入力します。

4 [範囲] タブの最初のボックスで、**Enterprise Vault** を選択して、**Enterprise Vault 分類キャッシュフォルダ** を含めることを指定します。

5 [分類] タブで、次の情報を入力します。

- **[分類方法]** セクションで、アイテムに **Enterprise Vault 分類** プロパティを割り当てる方法を選択します。

分類規則の作成

全般 スコープ 分類 評価の種類

分類方法
 ファイルにプロパティを割り当てる方法を選択してください(C):
 Veritas Information Classifier
 文字列と正規表現パターンを検索します。

プロパティ
 ファイルに割り当てるプロパティを選択してください(O):
 evtag.category

値の指定(V):
☐ Email containers
☐ Fax
☐ Large item
☐ Many attachments

注意: 割り当てられた値は、他の分類規則のより重要な値と結合されるか上書きされる可能性があります。

パラメーター
 この分類方法には追加の構成パラメーターが必要です。

構成(N)...

ヘルプ(H) OK キャンセル

分類方法の一覧を次に示します。

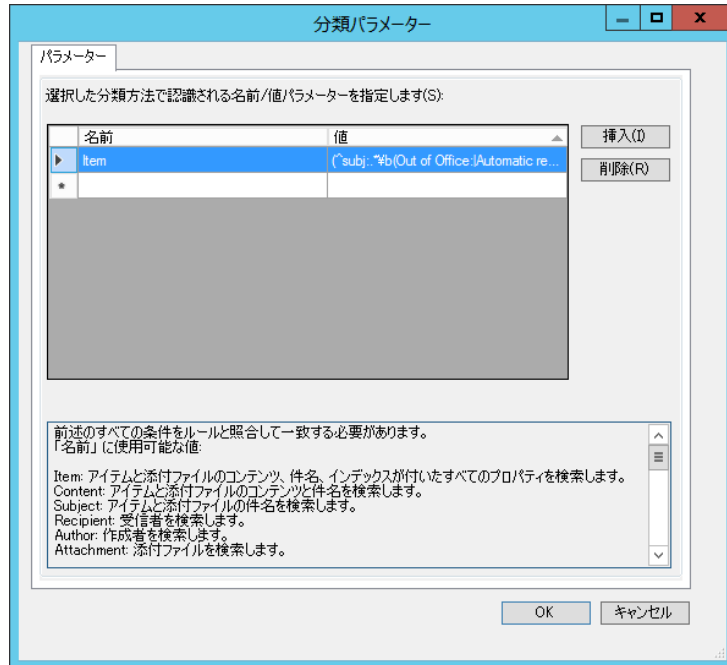
- コンテンツ分類子。この方法では、アイテムに対して文字列と正規表現を照合します。
- フォルダ分類子。この方法は、Enterprise Vault 分類機能とともにには働かないので選択しないでください。
- Windows PowerShell 分類子。この方法では PowerShell を使ってルールを作成できます。
- Veritas 情報分類子。この方法では、アイテムで文字列、正規表現、近似ワードを照合します。

メモ: Veritas 情報分類子の方法は最も効率的な方法でルールを処理するように明確に設計されているので、別の分類方法ではなく Veritas 情報分類子を使うことを推奨します。Veritas 情報分類子では複数のルールの同時処理、平均実行時間別のルールの並べ替えが可能で、ルールに複数の句が含まれる場合は最初に簡単な句から評価します。Veritas 情報分類子を使うと件名など、メッセージの特定部分のみを対象にできるのでアイテムの内容全体を検索する必要がありません。このようなすべての拡張機能により、ルール処理全体の時間が大幅に短縮されました。

Veritas 情報分類子には、コンテンツ分類子などの他の似たような方法に比べてさらに優れている点があります。英語などの Windows の言語バージョンを実行しているサーバーから Veritas 情報分類子の方法を使うルールセットをエクスポートしたり、日本語などの別の言語バージョンを実行しているサーバーにこのルールセットを問題なくインポートしたりできます。これは、コンテンツ分類子の方法を使うルールのエクスポートやインポートでは不可能です。

この一覧には、サードパーティーの分類方法がインストールされている場合には、その方法も含まれます。

- [プロパティ]セクションで Enterprise Vault 分類プロパティを選択し、アイテムに割り当ててプロパティの値を設定します。
p.19 の「Enterprise Vault 分類プロパティについて」を参照してください。
- [パラメータ]セクションで、[設定]をクリックして、ルールで検索する内容を指定します。次に例を示します。



Veritas 情報分類子の方法を使う分類ルールでは、名前と値のパラメータの範囲を指定できます。

p.39 の「Veritas 情報分類子の方法を使うルールのサポート対象構成パラメータ」を参照してください。

- 6 [評価の種類]タブのオプションを選択せずに[OK]をクリックします。Enterprise Vault では、このタブの設定は考慮されません。

Veritas 情報分類子の方法を使うルールのサポート対象構成パラメータ

Veritas 情報分類子の方法を使うルールを作成する場合は 1 つ以上の設定パラメータを追加で指定する必要があります。追加するパラメータには、アイテムを検索するために使うテキスト文字列または正規表現を定義します。各パラメータは **name** と、対応する **value** から成ります。

同じルールに複数の設定パラメータを指定できます。たとえば、1 つ目の単語でアイテムの件名、2 つ目の単語でメッセージ本文を検索するルールを作成すると便利です。この場合は、アイテムが照合するルールのすべてのパラメータと一致する必要があります。

Veritas 情報分類子は OR 演算子ではなく AND ブール演算子でパラメータを結び付けます。

メモ: 複数のパラメータを OR ブール演算子で結び付けた場合の結果をシミュレートするには、同じ分類プロパティに同じ値を割り当てた複数のルールを作成します。たとえば、**evtag.category** プロパティに同じ値を割り当てる 2 つのルール (アイテムの件名で 1 つの単語を検索するルールとメッセージ本文で別の単語を検索するルール) を作成できます。

名前のサポート対象値

[分類パラメータ]ダイアログボックスの[名前]列に入力する値で設定パラメータのスコープを設定します。この値は検索するアイテムのプロパティを指定します。

[名前]列にプロパティ名を入力して個々のプロパティを検索できます。たとえば、**cont** と入力してアイテムのメッセージ本文を検索したり、**rbea** と入力して電子メール受信者の電子メールアドレスを検索したりできます。インデックス付きアイテムには多数のプロパティがありますが、分類の対象になるのはサブセットのみです。サブセットは **Enterprise Vault** が分類キャッシュフォルダに平文ファイルで格納したプロパティと関連付けられた値です。

p.63 の「[Enterprise Vault のプロパティについて](#)」を参照してください。

1 つのアーカイブのみにアイテム进行分类する場合は、**archiveid** プロパティでこのアーカイブの一意の識別子を指定できます。たとえば、1 つめの設定パラメータで **archiveid** プロパティの値を指定し、2 つめの設定パラメータで **cont** プロパティの値を指定すると、本文に特定の語句が含まれる処理対象アーカイブのアイテムに分類を制限できます。

一度にアイテムの複数のプロパティを検索できる場合は複数の複合プロパティを利用することもできます。[表 4-2](#) に、複合プロパティの値の説明を示します。

表 4-2 複合プロパティ

| 名前 | 説明 |
|------------|---|
| Attachment | 添付ファイル関連のすべてのプロパティ(コンテンツ、ファイル名、サイズ、種類、日付)を検索します。 |
| Author | 作成者のプロパティを検索します。 |
| Content | アイテムとその添付ファイルの件名とコンテンツの両方を検索します。 |
| Item | アイテム全体 (件名、コンテンツ、アイテムとその添付ファイルのすべての分類可能なプロパティ) で該当アイテムを検索します。 |
| Recipient | 受信者リストのプロパティを検索します。 |
| Subject | アイテムとその添付ファイルの件名を検索します。 |

複数のプロパティをパイプ記号 (|) で区切って単一の **Name** 値にまとめることができます。たとえば、次の名前値は、アイテムの件名行 (**subj**) および添付ファイル (**a_subj**) を検索できるため、複合値 **Subject** と同じです。

```
subj|a_subj
```

次の例では、アイテムとその添付ファイルの件名 (**Subject**)、添付ファイルのコンテンツ (**a_cont**) を検索します。

```
Subject|a_cont
```

値のサポート対象値

[分類パラメータ]ダイアログボックスの[値]列に、検索対象(語句、正規表現など)を指定します。

デフォルトでは、入力する値の大文字と小文字は区別されません。そのため、**Fraud** という値は **Fraud** のみならず **fraud** と **FRAUD** とも一致します。ただし、先頭に (**?-i**) を入力すると値の大文字と小文字を区別できます。たとえば、(**?-i**)**Fraud** は **Fraud** にのみ一致します。

日時の値を、ISO 8601 形式の協定世界時 (UTC) の値として指定します。ISO 8601 に従い、日付と時刻を組み合わせた値は次の形式となります。

```
yyyy-mm-ddThh:mm:ssZ
```

たとえば、2016-07-12T13:00:00Z のようになります。

表 4-3 では、Veritas 情報分類子がサポートする値の種類について説明します。

表 4-3 [値]列のサポート対象値

| 値 | 説明 |
|-----|---|
| 文字列 | <i>fraud</i> や <i>cover up</i> など、指定した語句を検索します。 |

| 値 | 説明 |
|------|---|
| 正規表現 | <p>指定した正規表現を検索します。正規表現は、通常の文字 (a から z までの文字など) とメタ文字と呼ばれる特殊文字から成るテキストのパターンです。パターンとは、テキストを検索するときに照合する 1 つ以上の文字列です。たとえば、次の正規表現はすべての Visa カード番号で一連の数を照合します。</p> <pre>¥b4[0-9]{12}(:[0-9]{3})?¥b</pre> <p>正規表現 docx? は doc と docx の両方に一致するため、Microsoft Word 文書を検索する場合に役立ちます。</p> <p>正規表現は .NET Framework の正規表現の構文と一致する必要があります。この構文について詳しくは、Microsoft 社の Web サイトの次の記事を参照してください。</p> <p>https://msdn.microsoft.com/library/az24scfc.aspx</p> <p>http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=180327</p> <p>その他の正規表現の構文例については、分類ルールの例を参照してください。</p> <p>p.31 の「分類ルールの例について」を参照してください。</p> |
| 近接検索 | <p>指定した文字数内にある 2 つの単語や正規表現を検索します。句読点や空白文字は標準の文字として数えます。構文は次のとおりです。</p> <pre>NEAR[proximity,regular_expression,regular_expression]</pre> <p>たとえば、2 つの単語間が 100 文字以内の fraud と cover up を検索するには、次のように入力します。</p> <pre>NEAR[100,fraud,cover up]</pre> <p>たとえば、2 つの単語間が 150 文字以内の fraud と cover up または write off を検索するには、次のように入力します。</p> <pre>NEAR[150,fraud,(cover up write off)]</pre> |

| 値 | 説明 |
|----------------|--|
| 文字列または正規表現のリスト | <p>複数の単語、語句、または正規表現を検索します。構文は次のとおりです。</p> <pre>LIST[string_or_regular_expression string_or_regular_expression ...]</pre> <p>たとえば、cost of sales、earnings per share、financial expenses を検索するには、次のように入力します。</p> <pre>LIST[cost of sales earnings per share financial expenses]</pre> <p>数百の単語または語句を含むリストを入力する場合は、次の代替の構文を使ってパフォーマンスを最大化できることがあります。</p> <pre>LARGELIST[string1 string2 string3 ...]</pre> <p>LARGELIST は、別の方法を使ってアイテムのプロパティに対してリストを評価します。リストの先頭に一致する可能性が最も高い単語または語句を配置すると、さらにパフォーマンスを向上できます。</p> <p>メモ: LIST とは異なり、LARGELIST では正規表現を使用できません。</p> |
| 日付範囲 | <p>adat、date、mdat など、日付タイプのプロパティでのみ使います。指定した日付範囲内の日付プロパティ値を持つアイテムを検索します。範囲は無制限になる場合もあります。構文は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ YYYY-MM-DD..YYYY-MM-DD たとえば、2016-01-20..2016-06-19 を指定すると、これらの 2 つの日付の間のアイテムが検索されます。 ■ YYYY-MM..YYYY-MM たとえば、2015-01..2016-07 を指定すると、これらの 2 つの月の間のアイテムが検索されます。 ■ YYYY..YYYY たとえば、2015..2016 を指定すると、これらの 2 つの年の間のアイテムが検索されます。 ■ YYYY-MM-DD.. たとえば、2016-01-20.. を指定すると、この日付より後のアイテムが検索されます。 ■ ..YYYY-MM-DD たとえば、..2016-01-20 を指定すると、この日付より前のアイテムが検索されます。 <p>日付は Enterprise Vault ストレージサーバーの現在のタイムゾーンで表示されます。</p> |

分類ポリシーの定義と適用

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類ポリシーについて](#)
- [分類ポリシーの定義](#)
- [分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)
- [分類プロパティと保持計画の関連付け](#)
- [保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)
- [Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用](#)

分類ポリシーについて

分類ポリシーでは、Enterprise Vault サイトで実装する分類機能の範囲を指定します。分類ポリシーを使うことで、次の操作を実行するように選択できます。

- アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテム进行分类。このオプションを選択すると、Enterprise Vault は分類の目的でアイテムを送信し、その結果をアイテムにタグ付けします。それと同時に、アイテムのインデックスを作成して、アーカイブします。Enterprise Vault は分類ルールに従ってアイテムに `evtag.category`、`evtag.exclusion`、`evtag.inclusion` 値をタグ付けします。Compliance Accelerator や Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーは、検索やレビューを行うときに分類値を使ってアイテムをフィルタ処理できます。

Enterprise Vault がいつアイテム进行分类するかは、分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするか、標準のボルトストアパーティションに分類するかによって、次のように決まります。
- スマートパーティションを使用するように選択した場合、Enterprise Vault はアーカイブのタイミングでアイテム进行分类します。

- スマートパーティションを使用しないことを選択した場合、Enterprise Vault はインデックス付けのタイミングでアイテム进行分类します。

両方のケースで、アーカイブまたはインデックスボリュームのインデックスの再構築を実行する場合は、Enterprise Vault によって以前に適用された分類タグは破棄され、代わりに新しい分類タグが適用されます。再構築中も古いインデックスボリュームは引き続き検索可能であるため、このプロセスはユーザーに影響しません。

メモ: 分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはありません。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。

たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。

- アイテムの保持カテゴリを設定。この操作を行うと、分類機能によってアイテムの保持カテゴリを更新できます。割り当てる保持ポリシーを決定するために、Enterprise Vault は分類ルールによってアイテムに割り当てられているプロパティ値を調べます。プロパティ値の名前がサイトのいずれかの保持カテゴリの名前に一致すると、Enterprise Vault はその保持カテゴリをアイテムに割り当てます。

p.25 の「[分類プロパティ値と保持カテゴリの相互作用](#)」を参照してください。

- ユーザーアクションによる保持カテゴリの更新を禁止。デフォルトでは、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを変更する操作を実行したときに、Enterprise Vault は保持カテゴリを更新します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。ただし、分類ポリシーを使うと、ポリシーが適用されるアーカイブ内でこのような保持カテゴリが更新されないようにすることができます。

すべてのインスタンスで保持カテゴリの更新を禁止できます。また、Enterprise Vault レコード管理機能を使用すると、インスタンスで保持カテゴリの更新を許可できますが、アイテムのレコードの種類も変更されます。

- アーカイブ時やインデックスの作成時にアイテム进行分类するように選択している場合は、アーカイブ時やインデックスの作成時に分類機能によって保持カテゴリがアイテムに割り当てられます。このような場合、分類機能の保持カテゴリによって保持計画の保持カテゴリが上書きされます。次の追加オプションを使うと、分類機能によってアイテムの保持カテゴリを設定する方法を細かく制御できます。

- ユーザーによる削除このオプションを実装した場合、ユーザーがアイテムを削除しようすると、分類機能によってこのアイテムが分類されます。場合によっては、この操作をブロックする保持カテゴリが分類機能によって割り当てられるため、アイテムが破棄されなくなることがあります。
- 自動期限切れこのオプションを実装した場合、保持期限を過ぎると、分類機能によってこのアイテムが分類されます。ユーザーによる削除と同様に、削除をブロックするか、アイテムの保持期限を延長する保持カテゴリが分類機能によって割り当てられるため、アイテムが破棄されなくなることがあります。

分類ポリシーの定義

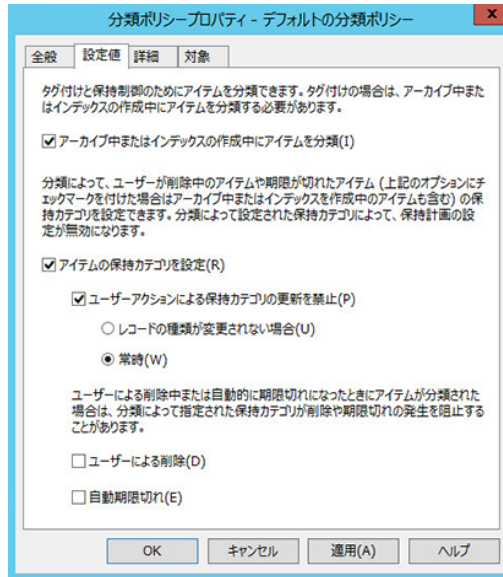
Enterprise Vault にはデフォルトの分類ポリシーが用意されています。必要に応じてこのポリシーを修正できますが、1 つ以上のカスタムポリシーを定義することもできます。異なるコンテンツソースに対して異なるポリシーを実装する場合は、カスタムポリシーの定義が必要になる場合があります。たとえば、ファイルシステムのアイテムに対する分類の必要条件は、**Exchange** メールボックスアイテムの必要条件とは異なることがあります。その場合は、各コンテンツソースについて分類ポリシーを定義して、1 つはファイルシステムアーカイブを対象とし、もう一方は **Exchange** メールボックスアーカイブを対象とする 2 つのポリシーを異なる保持計画に割り当てることができます。

次の手順では、管理コンソールを使って分類ポリシーを定義する方法を説明します。ただし、**PowerShell** コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

p.47 の「[分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

デフォルトの分類ポリシーのプロパティを表示および修正する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [分類]コンテナをクリックします。
- 4 右ペインで[デフォルトの分類ポリシー]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 必要に応じて設定を修正します。



6 [OK]をクリックして変更内容を保存します。

カスタム分類ポリシーを定義する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [分類]コンテナを右クリックして、[新規作成]をポイントして[ポリシー]をクリックします。
[新規分類ポリシー]ウィザードが表示されます。
- 4 画面に表示される指示に従います。

分類ポリシーと連携して機能する PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault は分類ポリシーの作成や修正で使えるいくつかの PowerShell cmdlet が付属しています。これらのコマンドレットは管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 5-1 分類ポリシーの作成や修正のための PowerShell cmdlet

| cmdlet | 説明 |
|-------------------------------|---|
| Get-EVClassificationPolicy | Enterprise Vault サイトで設定されているすべての分類ポリシーの一覧を返します。 p.77 の「 Get-EVClassificationPolicy 」を参照してください。 |
| New-EVClassificationPolicy | 分類ポリシーを作成します。 p.84 の「 New-EVClassificationPolicy 」を参照してください。 |
| Remove-EVClassificationPolicy | 指定した分類ポリシーが使用中でなければ削除します。 p.92 の「 Remove-EVClassificationPolicy 」を参照してください。 |
| Set-EVClassificationPolicy | 既存の分類ポリシーのプロパティを設定または更新します。 p.93 の「 Set-EVClassificationPolicy 」を参照してください。 |

分類プロパティと保持計画の関連付け

保持計画は分類ポリシーを Enterprise Vault アーカイブに割り当てるための手段を提供します。それぞれの分類ポリシーを 1 つ以上の保持計画に割り当てて、各計画を 1 つ以上のアーカイブに適用します。この操作により、Enterprise Vault では関連付けた分類ポリシーに基づいてアーカイブ内のアイテムが処理されます。保持計画の設定方法について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

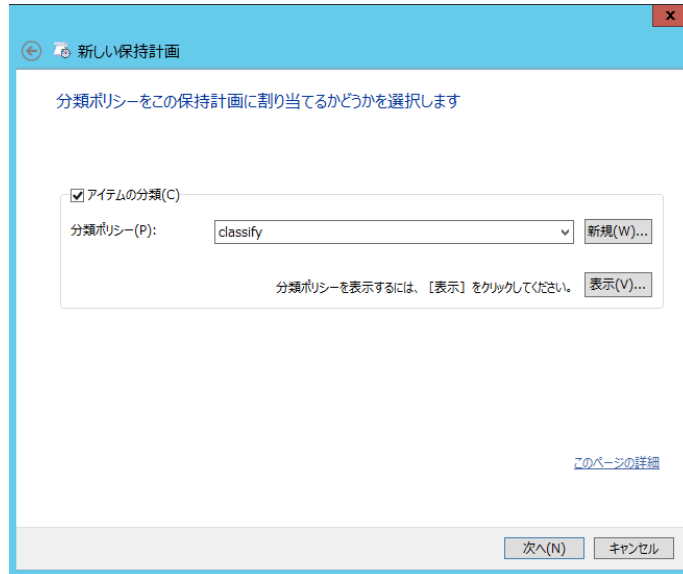
次の手順では、管理コンソールを使って分類ポリシーを保持計画に関連付ける方法について説明します。ただし、PowerShell コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

p.50 の「[保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

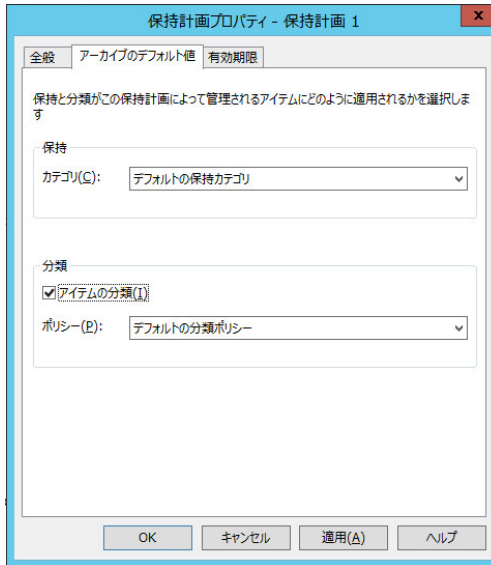
分類ポリシーと保持計画を関連付ける方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでツリー表示を展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - 保持計画をまだ作成していない場合は、[計画]コンテナを右クリックし、[新規作成]をポイントして[計画]をクリックします。

[新しい保持計画]ウィザードが表示されます。保持計画の作成手順の一環として、[アイテムの分類]オプションを選択してから、必要な分類ポリシーを選択する必要があります。



- 分類ポリシーを既存の保持計画に関連付けるには、[計画]コンテナをクリックして、右側にある必要な計画をダブルクリックします。
[保持計画プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。アイテムを分類して、必要な分類ポリシーを選択するためのオプションは、このダイアログボックスの[アーカイブのデフォルト値]タブにあります。



いずれの場合でも、保持カテゴリをアイテムに割り当てるときに分類機能によって保持計画が上書きされます。

保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault は保持計画の作成や修正で使えるいくつかの PowerShell cmdlet が付属しており、これらによって、それらの計画に関連付けられた分類オプションも同時に変更できます。これらのコマンドレットは管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 5-2 保持計画の作成や修正のための PowerShell cmdlet

| cmdlet | 説明 |
|------------------------|--|
| Get-EVRetentionPlan | Enterprise Vault サイトで構成したすべての保持計画の一覧を返します。計画に関連付けられた分類ポリシーを含む、さまざまなプロパティによって一覧をフィルタ処理できます。 |
| New-EVRetentionPlan | 保持計画を作成して、その計画に関連付ける分類ポリシーを指定します。 |
| Remove-EVRetentionPlan | 指定した保持計画が使用中でない場合は、削除します。 |

| cmdlet | 説明 |
|---------------------|---|
| Set-EVRetentionPlan | 関連付けられた分類ポリシーなど、既存の保持計画のプロパティを設定または更新します。 |

これらの cmdlet について詳しくは『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用

分類ポリシーを定義し終えたら、それに保持計画を関連付けて、1 つ以上のアーカイブに計画を適用します。保持計画を次の機能のいずれかに関連付けることができるため、管理コンソールにはこれを行うための多数の方法が用意されています。

- Exchange、Domino、または IMAP プロビジョニンググループ
- Exchange ジャーナルアーカイブ、Domino ジャーナルアーカイブ、または SMTP アーカイブ
- FSA ボリュームまたはフォルダポリシー
- パブリックフォルダの対象
- SharePoint 対象またはサイトコレクション
- メールボックスの有効化ウィザードを実行することによってアーカイブを手動で有効にするメールボックス。

これらの各機能のドキュメントで、保持計画を適用する方法が説明されています。

PowerShell cmdlet の Set-EVArchive で、選択したアーカイブに保持計画を適用することもできます。詳しくは『PowerShell cmdlet』ガイドを参照してください。

保持計画を目的の機能に関連付けた後、対象のアーカイブへの変更を適用するための適切なアーカイブタスクを実行する必要があります。たとえば、IMAP プロビジョニンググループの場合のクライアントアクセスプロビジョニングタスクまたは SharePoint サイトコレクションの場合の SharePoint アーカイブタスクです。

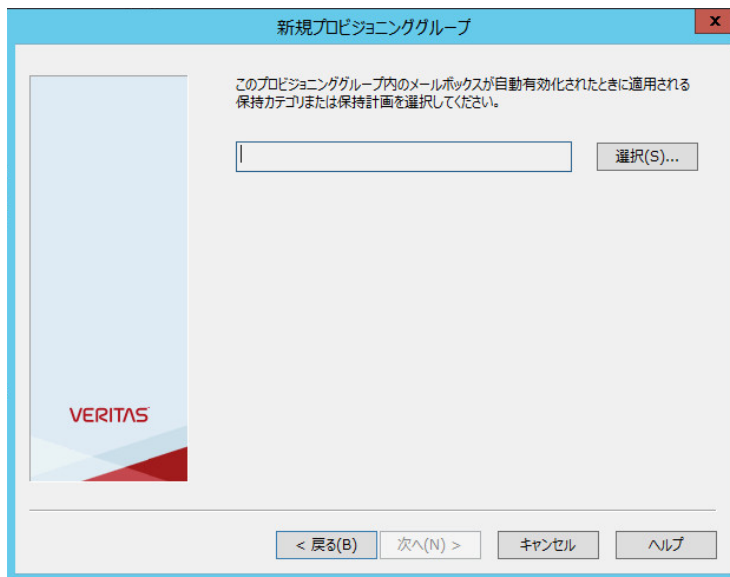
例として、次の手順で新しい Exchange プロビジョニンググループの設定時に保持計画を選択する方法が説明されています。

保持計画を Exchange プロビジョニンググループに関連付けるには

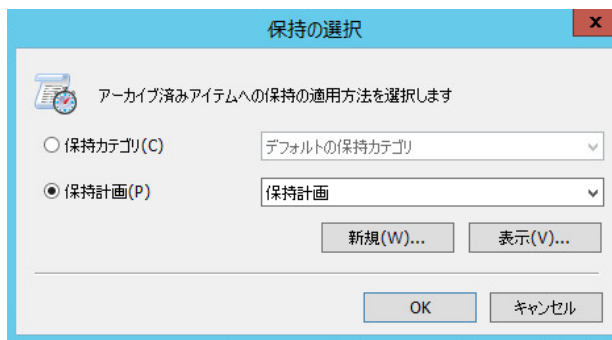
- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[対象]コンテナを表示します。
- 2 Exchange ドメインを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックして、[新規]をポイントして[プロビジョニンググループ]をクリックします。

新規プロビジョニンググループウィザードが表示されます。

- 4 必要な保持カテゴリまたは保持計画を指定するように求めるメッセージが表示されるまで、ウィザードを実行します。



- 5 [選択]をクリックして、[保持の選択]ダイアログボックスを開きます。



- 6 必要な保持計画を選択するか、[新規]をクリックして新しい保持計画を作成します。
- 7 ウィザードの残りのページを実行します。
- 8 Exchange プロビジョニングタスクを実行し、保持計画を対象アーカイブに適用します。
- 9 メールボックスを同期します。これを行うには、Exchange メールボックスアーカイブタスクのプロパティダイアログボックスを開き、[同期]タブの[同期]をクリックします。

テストモードでの分類の実行

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類テストモードについて](#)
- [分類テストモードの実装](#)
- [テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について](#)
- [分類テストモードレポートについて](#)

分類テストモードについて

テストモードで分類機能を実行することで、分類ルールを有効化する前に分類ルールの問題を特定して解決できます。テストモードで分類できない場合は次の方法で分類します。

- **Enterprise Vault** は、分類プロパティ、その値、結果の保持の変更をアーカイブ済みアイテムに適用せずにアイテムにインデックスを付けます。ただし、分類情報を格納してテストモードのレポートで確認できます。
- ユーザーが手動でアーカイブ済みアイテムを検出する場合や **Enterprise Vault** が保持期間が切れたアイテムを自動的に検出する場合には、アイテムは通常どおりに検出されます。ただし、分類の結果として処理を阻止したかどうかをテストモードのレポートに示します。たとえば、アイテムの保持期間を延長したり、手動削除や自動期限切れを阻止する保持カテゴリを適用する場合がこのケースに当てはまります。

テストモードのレポートは期待どおりに働かないルールを識別するのに役立つことがあります。ルールが期待どおりに動作しない場合は、ルールを修正して、満足した結果が得られるまでテストを再実行します。

分類テストモードの実装

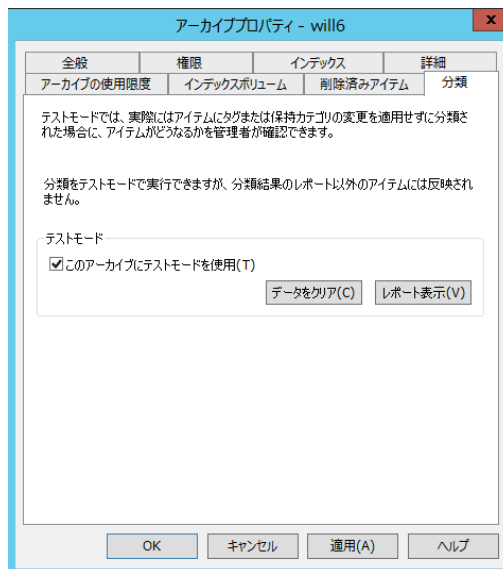
分類テストモードは個々のアーカイブに対して実施します。関連付けられた分類ポリシーを持つ保持計画を割り当てたアーカイブのみがテストモードの対象になります。

次の手順では、管理コンソールを使ってアーカイブで分類テストモードを実装する方法を説明します。ただし、PowerShell コマンドレットで同じ操作を実行することもできます。

p.55 の「[テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について](#)」を参照してください。

分類テストモードを実装するには

- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[アーカイブ]コンテナを表示します。
- 2 分類テストモードを実施するアーカイブを特定して右クリックします。
- 3 そのアーカイブのプロパティダイアログボックスで、[分類]タブをクリックします。
- 4 [このアーカイブにテストモードを使用]を選択します。



- 5 [OK]をクリックして変更内容を保存します。
- 6 [分類]ページに戻って[レポート表示]をクリックしてデフォルトの Web ブラウザでレポートを開きます。必要に応じて、ブラウザの機能を使ってレポートを保存できます。
- 7 アーカイブのテストモードを無効にしてアーカイブ済みアイテムを再び分類する場合は、[再構築]ウィザードでインデックスボリュームを再構築します。(再構築中も古い

インデックスボリュームは引き続き検索可能であるため、このプロセスはユーザーに影響しません。)インデックス付けの実行中にアイテムを分類する分類ポリシーを設定した場合には Enterprise Vault はインデックスの再構築の一環としてアイテムを再分類します。[再構築]ウィザードについて詳しくは『Veritas Enterprise Vault 管理者ガイド』を参照してください。

テストモードを無効にした後や分類ポリシーからアーカイブの関連付けを解除した後もレポートデータは vault store database に残ります。このデータベースを削除するには、[分類]ページで[データをクリア]をクリックします。

テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault はテストモードで分類を実行するための 2 つの PowerShell cmdlet が付属しています。これらの cmdlet は管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 6-1 テストモードで分類を実行するための PowerShell cmdlet

| cmdlet | 説明 |
|------------------------------|--|
| Get-EVClassificationTestMode | 分類機能が処理対象アーカイブにおいてテストモードで動作しているかどうかを報告します。 p.80 の「 Get-EVClassificationTestMode 」を参照してください。 |
| Set-EVClassificationTestMode | 処理対象アーカイブの分類テストモードの有効と無効を切り替えます。 p.96 の「 Set-EVClassificationTestMode 」を参照してください。 |

分類テストモードレポートについて

表 6-2 が示すとおり、分類テストモードレポートには複数のセクションがあります。

表 6-2 分類テストモードレポートの内容

| 本項 | 表示内容 |
|-------|--|
| 分類の概略 | テストモードでアーカイブしたときに Enterprise Vault が分類したアイテムの数。概略には、Enterprise Vault が分類に失敗したアイテムの数も示されます。 |

| 本項 | 表示内容 |
|-------------|---|
| ルールとの一致 | アイテムが一致する分類ルールと各ケースにおけるアイテム数。 |
| タグの適用の提案 | Enterprise Vault がアイテムに割り当てる分類プロパティ値と各ケースにおけるアイテム数。 |
| スマートパーティション | Enterprise Vault がアイテムをアーカイブするスマートパーティションと各ケースにおけるアイテム数。 |
| 保持カテゴリ | 割り当て済みのプロパティ値が保持カテゴリのプロパティ値と同じである分類ルールに一致する(したがって、Enterprise Vault によってカテゴリが適用される)アイテムの数。 |
| 保持に提案された変更 | <p>Enterprise Vault によって修正、延長または短縮される保持期間を持つアイテムの数。修正したアイテムの数は、延長または短縮した保持期間のアイテムの合計と同じにならないことがあります。たとえば、元の保持カテゴリと同じ保持期間を設定した新しい保持カテゴリを取得するアイテムもあります。</p> <p>このセクションには、Enterprise Vault がアイテムを分類すると期限切れの対象になるアイテムの数も表示されます。</p> |
| 遮断された削除 | 分類時に保持カテゴリを再評価するため、Enterprise Vault によって自動期限切れまたはユーザーによる削除が遮断されたアイテムの数。遮断された削除が存在しない場合は、レポートではこのセクションが省略されます。 |

サイト全体への分類プロパティとルールの公開

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類のプロパティとルールの公開方法](#)

分類のプロパティとルールの公開方法

分類プロパティとルールが期待どおりに動作することが確認できたら、Enterprise Vault 環境の他のストレージサーバーに対してそれらを公開できます。これを行うには、PowerShell cmdlet の `Import-EVClassificationFCIRules` または `Publish-EVClassificationFCIRules` を実行します。

p.81 の「[Import-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

p.89 の「[Publish-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

これら 2 つの cmdlet は同様の機能を実行します。2 つの違いは、`Publish-EVClassificationFCIRules` が分類プロパティとルールをターゲットサーバーに公開する前に XML ファイルにエクスポートするのに対して、`Import-EVClassificationFCIRules` は既存の XML ファイルを使って操作のインポート部分のみを実行することです。

たとえば、次によって分類プロパティとルールを `RulesFile.xml` ファイルにエクスポートして指定したサイトのすべての Enterprise Vault サーバーに公開します。

```
Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ  
-ExportRulesPath c:\Data\RulesFile.xml -SiteId 13E...EV.example.com
```

分類プロパティとルールの公開は、Microsoft Data Classification Toolkit に付属する PowerShell cmdlet を実行するなど、他の方法で実行することもできます。ただし、こうした方法では、新しい分類プロパティとルールをインストールするときに、ターゲットサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスが自動的にオフにされません。これが原

因で分類エラーが発生することもあるため、Enterprise Vault 分類 cmdlet を使うことをお勧めします。これらの cmdlet は、インストールを開始する前にストレージサービスを停止し、インストール後にサービスを再起動します。

スマートパーティションを使用した分類

この章では以下の項目について説明しています。

- [スマートパーティションについて](#)
- [Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするかどうかを決める方法](#)
- [スマートパーティションの設定](#)
- [Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認](#)

スマートパーティションについて

以前のバージョンの **Enterprise Vault** では、ストレージデバイスの単一のオープンボルトストアパーティションにすべてのアイテムをアーカイブしていました。**Enterprise Vault 12.3** 以降では、**Enterprise Vault** のアイテムの分類方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなパーティションにアーカイブできます。たとえば、個人識別情報 (PII) を含んでいるアイテムを検出してタグを付けるように分類エンジンを設定した場合は、これらのアイテムを 1 つのパーティションにアーカイブするように選択できます。入札やビジネスの提案など、他の種類のアイテムを別のパーティションにアーカイブできます。

これらの分類関連のパーティションは、スマートパーティションと呼ばれます。このパーティションは、以下の点を除き、標準のボルトストアパーティションと同じです。

- **Vault** 管理コンソールを使用すると、選択した分類エンジン (**Veritas Information Classifier** または **Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ**) で定義した 1 つ以上の分類タグとスマートパーティションを関連付けることができます。選択したタグを分類エンジンが割り当てたアイテムのみが、スマートパーティションにアーカイブされます。

- 複数のスマートパーティションをアーカイブ用に同時に開くことができます。これは、標準のボルトストアパーティションには当てはまりません。標準のボルトストアパーティションでは、各ボルトストアで開くことができるパーティションは 1 つに限られます。
- 特定の基準が満たされると、Enterprise Vault が次の使用可能なパーティションに自動的にロールオーバーするように、標準のボルトストアパーティションを設定できます。このロールオーバー機能は、スマートパーティションでは利用できません。

標準のボルトストアパーティションでは、Enterprise Vault がサポートする任意のストレージデバイス上にスマートパーティションを作成できます。

Enterprise Vault がアイテムをスマートパーティションにアーカイブするかどうかを決める方法

使用環境に、標準のボルトストアパーティションとスマートパーティションの両方を含めることができます。次の条件のいずれかが該当する場合、Enterprise Vault は、スマートパーティションではなく、開いている標準のボルトストアパーティションにアイテムをアーカイブします。

- ターゲットアーカイブで分類を有効にしていない。
- ターゲットアーカイブで分類をテストモードで実行するように選択した。
- 分類エンジンがアイテムにタグを割り当てていない。
- 分類エンジンがアイテムにタグを割り当てているが、開いているスマートパーティションに関連付けたタグのどれとも一致しない。

これらの条件のどれも該当しない場合、Enterprise Vault は適切なスマートパーティションにアイテムをアーカイブします。分類エンジンがアイテムに割り当てたタグと、開いている 1 つのスマートパーティションに関連付けたタグの間に一致がある場合、Enterprise Vault はこのパーティションにアイテムをアーカイブします。たとえば、あるアイテムがタグ「PII」を使用して分類されており、そのタグがスマートパーティションに関連付けられている場合、Enterprise Vault はこのパーティションにアイテムをアーカイブします。

開いているスマートパーティションが複数がある場合、状況はより複雑になります。それぞれパーティションにアイテムを受け取る可能性があります。たとえば、あるアイテムがタグ「PII」と「Credit-Card」を使用して分類されており、それぞれのタグを別々のスマートパーティションに関連付けたとします。パーティションを設定するときに、パーティションに関連付ける各タグにランクを設定できます。「PII」タグのランクが「Credit-Card」タグより高い場合、Enterprise Vault は、「PII」タグと関連付けられているパーティションにアイテムをアーカイブします。

スマートパーティションの設定

スマートパーティションを設定する手順は、標準のボルトストアパーティションの設定手順とほぼ同じです。唯一の大きな違いは、スマートパーティションを設定するときに、スマートパーティションに関連付ける分類タグを 1 つ以上選択する必要があることです。

スマートパーティションを設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ボルトストアグループ]コンテナが表示されるまで、Enterprise Vault サイトの階層を展開します。
- 2 [ボルトストアグループ]コンテナを展開して、既存のボルトストアグループを表示します。
- 3 スマートパーティションを設定するボルトストアを含むボルトストアグループを展開します。
- 4 スマートパーティションを設定するボルトストアを展開します。
- 5 [スマートパーティション]コンテナを右クリックし、[新規作成]、[スマートパーティション]の順にクリックします。

新規スマートパーティションウィザードが起動します。

- 6 画面に表示される指示に従います。以下の情報を指定する必要があります。
 - スマートパーティションの名前と説明
 - スマートパーティションの初期状態をオープンまたはクローズのどちらに設定するか
 - スマートパーティションと関連付ける分類タグ
 - パーティションを作成するストレージデバイスの種類
 - ストレージデバイス上の新しいパーティションの場所
 - ストレージデバイスで使用するストレージの設定
 - Dell EMC Centera デバイス上のパーティションの場合、デバイスレベル共有を有効にするかどうか
 - パーティションフォルダに、セキュリティ ACL を使用するスマートパーティションを作成するかどうか
 - スマートパーティションでバックアップを作成しているデータを確認する方法
 - ファイル収集ソフトウェアを使用して、大きい収集ファイルに多数の小さいファイルをまとめるかどうか

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションに正常にアーカイブされたことを確認するには、Vault 管理コンソールの使用状況レポートを確認します。

Enterprise Vault でアイテムがスマートパーティションにアーカイブされたことの確認方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ボルトストアグループ]コンテナが表示されるまで、Enterprise Vault サイトの階層を展開します。
- 2 [ボルトストアグループ]コンテナを展開して、既存のボルトストアグループを表示します。
- 3 使用状況レポートを表示するボルトストアを含むボルトストアグループを展開します。
- 4 目的のボルトストアを右クリックし、[レポート]をクリックします。
[ボルトストア使用状況の詳細情報]ページが表示されます。
- 5 [パーティションごとの使用状況レポートの表示]をクリックします。
このレポートには次の情報が表示されます。

| | |
|-------|---|
| 名前 | パーティションの名前を表示します。 |
| スマート | パーティションがスマートパーティション (True) または標準のボルトストアパーティション (False) のどちらであるかを示します。 |
| アイテム数 | パーティションのアイテムの数を表示します。 |
| 合計サイズ | パーティションのアイテムの合計サイズを表示します。 |

また、次の情報もレポートに記載されます。

- ボルトストア内のアイテムの総数。
- すべてのアーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の合計サイズ。
- 各アーカイブ済みアイテムが占めるボルトストア内の領域の平均サイズ。

分類ルールで使う Enterprise Vault プロパティ

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault のプロパティについて](#)
- [システムプロパティ](#)
- [添付ファイルのプロパティ](#)
- [Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ](#)
- [ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ](#)
- [Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ](#)

Enterprise Vault のプロパティについて

Enterprise Vault はアイテムにインデックス付けするときに、アイテムに関する情報が含まれるアイテムの複数のメタデータプロパティを使います。このような情報の例として、表示名とメッセージ作成者の電子メールアドレス、添付ファイルの数、アイテムのファイルサイズなどがあります。

インデックス付きアイテムには多数のプロパティがありますが、分類の対象になるのはサブセットのみです。サブセットは Enterprise Vault が分類のために FCI (File Classification

Infrastructure) に渡すプロパティと関連付けられた値です。Veritas 情報分類子の方法を使うルールを作成する場合はこれらの個々のプロパティの値を検索します。

p.39 の「Veritas 情報分類子の方法を使うルールのサポート対象構成パラメータ」を参照してください。

システムプロパティ

表 A-1 に、Enterprise Vault で定義されているシステムプロパティの一覧を示します。

表 A-1 Enterprise Vault のシステムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-----------|-----|---|
| adat | 日付 | アイテムをアーカイブした日付。 |
| archiveid | 文字列 | アイテムを格納するアーカイブの ID。PowerShell cmdlet の Get-EVArchive を使用して必要な ID を取得できます。 |
| audn | 文字列 | 作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の表示名。 |
| auema | 文字列 | 作成者と、該当する場合はアイテムが送信された際の代表者の電子メールアドレス。 |
| cend | 日付 | カレンダーミーティングなどのイベントの終了日。 |
| clcn | 文字列 | アイテムの現在の場所。フォルダのシーケンス。 |
| clon | 文字列 | カレンダーミーティングなどのイベントの場所。 |
| cntp | 文字列 | 対話追跡トピック。これは MAPI アイテムおよび SMTP アイテムのみに現在ポピュレートされています。 |

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-------|-----|--|
| comr | 文字列 | <p>消失した内容の理由。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0. 利用可能な理由はありません。 1. 内容は存在しません。 2. 内容を入手できませんでした。 3. 内容が壊れています (または壊れているようです)。 4. 適した形式に内容を変換できません。 5. 内容の変換に失敗しました (コンバータエラー)。 6. 内容の変換がタイムアウトになりました。 7. 内容の変換が必要ですが、データ形式は変換から除外されています。 8. 内容の変換が必要ですが、変換のバイパスは設定されています。 9. 内容が暗号化されています。 10. 内容の変換が必要ですが、コンバータは利用できないか、初期化されていません。 11. インデックスに内容を追加できません。 12. コンバータはファイルの種類を認識しませんでした。 13. 大きいファイルのために変換が除外されました。 14. 検出できないコードページのために変換が除外されました。 |
| cont | 文字列 | <p>アイテムの内容 (Windows File Classification Infrastructure が課す制限以下)。</p> <p>p.16 の「分類ファイルサイズの制限」を参照してください。</p> |
| cpnm | 文字列 | 拡張コンテンツプロバイダの名前。 |
| crcn | 文字列 | <p>現在の保持カテゴリ名。</p> <p>分類、保持計画、保持フォルダなど、Enterprise Vault の各種の機能がアイテムに適用している値を反映することがあります。</p> |
| crre | 整数 | カレンダー反復の例外。 |
| crrp | 文字列 | カレンダー反復パターン。 |
| crt | 整数 | カレンダー反復の種類。 |
| csrt | 日付 | カレンダーミーティングなどのイベントの開始日。 |
| date | 日付 | 作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。 |
| dtyp | 文字列 | アイテムのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。 |

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-------|-----|---|
| flag | 文字列 | メッセージフラグの状態。 |
| impo | 文字列 | 数値で表されるメッセージの重要度。0 = 低、1 = 標準、2 = 高。 |
| keys | 文字列 | カテゴリまたはキーワード。 |
| locn | 文字列 | アイテムの元の場所。フォルダのシーケンス。 |
| mdat | 日付 | アイテムの最終変更日。 |
| msgc | 文字列 | アイテムの元の MAPI メッセージクラス (たとえば、IPM.Note)。 |
| natc | 番号 | 添付ファイルの数。 |
| nrcp | 番号 | 受信者の数。 配布リストは、メンバーの数に関係なく、1 人の受信者としてカウントされます。 |
| nrea | 数 | 受信者の電子メールアドレスの数。 配布リストを展開するように Enterprise Vault を設定した場合は、ジャーナルアーカイブのアイテムでは配布リストの各メンバーが 1 人の受信者としてカウントされます。 |
| prio | 文字列 | 数値で表されるメッセージの優先度。-1 = 低、0 = 標準、および 1 = 高。 |
| rbdn | 文字列 | BCC 受信者の表示名。 |
| rbea | 文字列 | BCC 受信者の電子メールアドレス。 |
| rcdn | 文字列 | CC 受信者の表示名。 |
| rcea | 文字列 | CC 受信者の電子メールアドレス。 |
| rsdt | 日付 | 保持の開始日付/時刻。 32 ビットのボリュームを対象にするクエリーではサポートされません。 |
| rtdn | 文字列 | 宛先受信者の表示名。 |
| rtea | 文字列 | 宛先受信者の電子メールアドレス。 |
| sens | 文字列 | 数値で表されるメッセージの機密性。0 = 標準、1 = 個人用、2 = 秘密、および 3 = 機密。 |
| size | 番号 | KB のアイテムのサイズ。 |
| subj | 文字列 | 件名またはタイトル。 |

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-------|----|--|
| tcdt | 日付 | タスクの完了日。 |
| tddt | 日付 | タスクの期限。 |
| tsts | 番号 | タスクの状態。0 = 未開始、1 = 進行中、2 = 完了、3 = 一時停止、4 = 遅延。 |

添付ファイルのプロパティ

Enterprise Vault が分類に渡したアイテムに 1 つ以上の添付ファイルがある場合、これらの添付ファイルの複数のプロパティも分類に使用できます。これらの添付ファイルのプロパティは **a_** 接頭辞の **a_cont**、**a_subj** などによって区別できます。表 A-2 に、Enterprise Vault が分類のために渡す添付ファイルのプロパティの一般的なセットが一覧表示されています。

表 A-2 Enterprise Vault の添付ファイルのプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|--------|------|---|
| a_comr | 文字列 | 不明な内容の理由 (暗号化された内容、コンバータエラーなど)。詳しくは、 comr プロパティの説明を参照してください。 p.64 の「システムプロパティ」を参照してください。 |
| a_cont | 文字列 | Windows File Classification Infrastructure によって課せられる制限以下の添付ファイルの内容。 p.16 の「分類ファイルサイズの制限」を参照してください。 |
| a_date | Date | 添付ファイルの作成、送信、受信、またはアーカイブが行われた日付。 |
| a_dtyp | 文字列 | 添付ファイルのデータの種類。たとえば、DOCX、XLSX、または MSG。 |
| a_mdat | Date | 添付ファイルの最終変更日。 |
| a_size | 番号 | KB の添付ファイルのサイズ。 |
| a_subj | 文字列 | 添付ファイルのファイル名。またはメッセージの場合は件名。 |

分類機能では、添付ファイルを常にファイルとして扱います。そのため、添付ファイルが電子メールメッセージの場合でも、送信者の情報と受信者の情報を分類に利用できません。

Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-3 は Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-3 Enterprise Vault のカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|--------------------|-----|--|
| Vault.CopiedFrom | 文字列 | <p>Enterprise Vault のアーカイブの移動機能がコピーしたアイテムの次の詳細を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アイテムをコピーした日時。 ■ アーカイブ元の識別子。 ■ ソースアイテムの保存セット識別子。 <p>次の形式があります。</p> <p><i>UTC_datetime_of_copy、source_archive_ID、source_item_Saveset_ID</i></p> <p>アーカイブが数回移動された場合、各移動に値があります。</p> |
| Vault.JournalType | 文字列 | <p>ジャーナルメッセージ用のジャーナルの種類。オプションは次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ E2003 ■ E2007 ■ E2007ClearText ■ E2007RMS |
| Vault.MsgDirection | 文字列 | <p>メッセージの方向。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 0 - 未定義 ■ 1 - 内部（送信者とすべての受信者が内部） ■ 2 - 外部インバウンド（送信者が外部で、1人以上の受信者が内部） ■ 3 - 外部アウトバウンド（送信者が外部で、1人以上の受信者が外部） |
| Vault.MsgType | 文字列 | <p>メッセージの種類。オプションは次のとおりです：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Bloomberg ■ DXL ■ EXCH ■ FAX.vendor ■ IM.vendor ■ SMTP |

ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-4 はファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-4 ファイルシステムアーカイブのアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|------------------------|-----|--|
| EVFSADLMImport.DLM | 文字列 | アイテムがレガシーのアーカイブアプリケーション、Veritas データライフサイクル管理 (DLM) からインポートされたインジケータ。これは現在文字列「インポート済み」とポピュレートされていません。 |
| EVFSA.OriginalFileName | 文字列 | Enterprise Vault がアーカイブしたポイントのファイルのオリジナル名称。 |

SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-5 は SharePoint のアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

これらのプロパティの中には、特定の Enterprise Vault システムプロパティと同様なものがあります。たとえば、SharePoint プロパティ "EVSP.Title" は Enterprise Vault システムプロパティ "subj" と似ています。ただし、Enterprise Vault システムプロパティは、ソーシャルコンテンツアイテムなど、一部の SharePoint アイテムで予測される情報を保持しません。このため、SharePoint アーカイブを検索する場合は、同等の Enterprise Vault システムプロパティでなく、カスタムの SharePoint インデックスプロパティを使ってください。

表 A-5 SharePoint アイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|---------------------|-----|---|
| EVSP.AttachmentName | 文字列 | このアイテムに対するすべての添付ファイルの名前の一覧。このプロパティは、Wikiを除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。 |
| EVSP.Comment | 文字列 | チェックインのコメント。 |

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-------------------------------|-----|---|
| EVSP.Created | 文字列 | アイテムの作成日。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。 |
| EVSP.CreatedBy | 文字列 | 文書の作成者のドメイン名 (Windows アカウント名)。 |
| EVSP.DocId | 文字列 | SharePoint 文書の識別子。 |
| EVSP.Editor | 文字列 | 文書エディタの表示名。 |
| EVSP.Modified | 文字列 | アイテムが最後に更新された日付。このプロパティはソーシャルコンテンツにのみ適用されます。 |
| EVSP.ModifiedBy | 文字列 | 文書エディタのドメイン名 (Windows アカウント名)。 |
| EVSP.ProgId | 文字列 | アイテムのプログラム ID。 |
| EVSP.Site | 文字列 | SharePoint のサイトの名前。 |
| EVSP.SiteId | 文字列 | SharePoint のサイトの識別子。 |
| EVSP.SiteUrl | 文字列 | SharePoint のサイトの URL。 |
| EVSP.Title | 文字列 | SharePoint 文書のタイトル。 |
| EVSP.UniqueId | 文字列 | アイテムを一意に識別する GUID。 |
| EVSP.Version | 文字列 | SharePoint 文書のバージョン。 |
| EVSP.Attachments | 文字列 | アイテムに添付ファイルがあるかどうか (true または false)。このプロパティは、Wiki を除くソーシャルコンテンツのみに適用されます。 |
| EVSP.display_name | 文字列 | アーカイブ済みアイテムの表示名。 |
| EVSP.SharePoint_property_name | 文字列 | カスタマーが設定可能なプロパティ。任意の SharePoint のプロパティ。 |

Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

表 A-6 は Compliance Accelerator でランダムにサンプリングしたアイテムの Enterprise Vault で定義されているカスタムプロパティをリストします。

表 A-6 Compliance Accelerator 処理されたアイテムの Enterprise Vault のカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|--------------------|-----|---|
| KVSCA.Department | 文字列 | KVSCA.DeptAuthor と KVSCA.DeptRecips のプロパティ値を組み合わせます。 |
| KVSCA.DeptAuthor | 文字列 | アイテムの作成者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。 |
| KVSCA.DeptRecips | 文字列 | アイテムの受信者がメンバーの Compliance Accelerator 部門 ID のセット。 |
| Vault.PolicyAction | 文字列 | <p>アイテムで取る必要がある全体処理。適用されるポリシーすべての合計の結果。次の定義値があります:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NOACTION ■ EXCLUDE ■ INCLUDE |

ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

表 A-7 に、Enterprise Vault Data Classification Services などの特定のポリシー管理アプリケーションで使われることがあるカスタムプロパティの一覧を示します。

(Data Classification Services は、Veritas Enterprise Vault と Symantec Data Loss Prevention のさまざまなコンポーネントを組み合わせる、旧式のアドオン分類技術です。ここで説明する分類機能とは異なります。)

表 A-7 ポリシー管理ソフトウェアで使うためのカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|-----------------|-----|---|
| evtag.category | 文字列 | いずれの方向のキャプチャにも影響しないポリシーです。アイテムの分類のみを行います。 |
| evtag.exclusion | 文字列 | レビューセット内でキャプチャを除外するか、キャプチャしないことを推進するポリシーです。 |
| evtag.inclusion | 文字列 | キャプチャを要求または提案するポリシーです。 |

Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

表 A-8 は、他社のアプリケーションで SMTP メッセージに追加し、Enterprise Vault SMTP アーカイブでポリシーと対象設定を上書きできるカスタムプロパティをリストします。これらのプロパティについて詳しくは、『SMTP アーカイブの設定』を参照してください。

表 A-8 Enterprise Vault SMTP アーカイブのカスタムプロパティ

| プロパティ | 種類 | 説明 |
|--------------------------------|-----|--|
| EVXHDR.X-Kvs-ArchiveId | 文字列 | メッセージを保存するアーカイブの識別子。 |
| EVXHDR.X-Kvs-IndexData | 文字列 | インデックス付けする Enterprise Vault の 1 つ以上のプロパティ。 |
| EVXHDR.X-Kvs-MessageType | 文字列 | メッセージの種類。これにより、Enterprise Vault SMTP アーカイブがデフォルトで SMTP.mail に設定する Vault.MsgType プロパティの値が上書きされます。 |
| EVXHDR.X-Kvs-OriginalLocation | 文字列 | メッセージが存在するコンテンツソースのフォルダ。 |
| EVXHDR.X-Kvs-RetentionCategory | 文字列 | メッセージに割り当てる保持カテゴリの ID。 |

分類に使う PowerShell cmdlet

この付録では以下の項目について説明しています。

- [cmdlet の分類について](#)
- [Disable-EVClassification](#)
- [Get-EVClassificationFCITags](#)
- [Get-EVClassificationPolicy](#)
- [Get-EVClassificationStatus](#)
- [Get-EVClassificationTestMode](#)
- [Import-EVClassificationFCIRules](#)
- [New-EVClassificationPolicy](#)
- [Publish-EVClassificationFCIRules](#)
- [Remove-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationPolicy](#)
- [Set-EVClassificationTestMode](#)

cmdlet の分類について

この章では、Enterprise Vault の分類のさまざまな機能を管理するのに使う PowerShell cmdlet について説明します。これらの cmdlet は管理コンソールで利用可能な機能と大部分で重複しています。

『PowerShell Cmdlet』ガイドは Enterprise Vault を管理するために PowerShell を使う際の詳細情報を提供します。また、その他の数多くの cmdlet についても説明します。

Disable-EVClassification

Disable-EVClassification は、ファイル分類インフラストラクチャエンジンまたは Veritas Information Classifier エンジンが無効にします。この cmdlet で両方のエンジンを無効にすることはできません。Enterprise Vault サーバーで cmdlet を実行します。

分類エンジンを一度無効にし、あとで再び有効にする場合は、次のいずれかの cmdlet を使用して行うことができます。

- ファイル分類インフラストラクチャエンジンの場合は、
Import-EVClassificationFCIRules または
Publish-EVClassificationFCIRules を使用します。
- Veritas Information Classifier エンジンの場合は、
Initialize-EVClassificationVIC を使用します。

Disable-EVClassification は、
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

```
Disable-EVClassification [-FCI <SwitchParameter>] [-VIC  
<SwitchParameter>] [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-1 Disable-EVClassification のパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---------|---|
| -FCI | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。 |
| -VIC | Veritas Information Classifier を使用する分類を無効にします。 |
| -SiteId | 指定した分類エンジンを無効にする Enterprise Vault サイトの ID です。このパラメータを省略すると Disable-EVClassification は現在のサイトの ID を判別するためにレジストリを確認します。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |

例

- Disable-EVClassification -FCI

ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類を無効にします。サイト ID を指定しないと、cmdlet はレジストリを確認して現在のサイトの ID を判別します。

- `Disable-EVClassification -VIC -SiteId 198...example.com`
Veritas Information Classifier を使用する分類を、指定した **Enterprise Vault** サイト内で無効にします。

出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つ `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` タイプのオブジェクトを返します。

表 B-2 Disable-EVClassification のプロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|-----------------|---------|--|
| SiteName | 文字列 | 分類エンジンを無効にした Enterprise Vault サイトの名前です。 |
| FCIEnabled | Boolean | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。 |
| VICEnabled | Boolean | Veritas Information Classifier エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。 |
| VICPoliciesPath | 文字列 | Veritas Information Classifier エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。 |

Get-EVClassificationFCITags

メモ: この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

分類キャッシュフォルダ内の指定したプレーンテキスト (.txt) ファイルについて、Get-EVClassificationFCITags は、Enterprise Vault がファイルのタグ付けに使用した分類プロパティの詳細とプロパティ値を返します。

デフォルトでは、Enterprise Vault ができるだけ早い段階でキャッシュフォルダを空にします。ただし、管理コンソールで設定を選択することによって、キャッシュの内容を保持するように設定できます。

p.18 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。

Get-EVClassificationFCITags は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVClassificationFCITags [-File] <String>
```

パラメータ

表 B-3 Get-EVClassificationFCITags パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|------------|---|
| -File (必須) | 分類の詳細を返すプレーンテキストファイルのパス。.txt ファイルのみが対象です。ドル記号 (\$) を含むファイル名は、一重引用符 (') で囲みます。 |

例

- `Get-EVClassificationFCITags -File E:¥EVCache¥Classification¥ClassificationFile.txt`
ClassificationFile.txt ファイルの分類の詳細を返します。
- `Get-EVClassificationFCITags -File 'E:¥EVCache¥Classification¥EV$9...EDB8.txt'`
ファイル名にドル記号を含むファイルの分類の詳細を返します。そのため、完全パスを一重引用符で囲みます。

出力

この cmdlet は、以下のプロパティが設定された

Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationProperty 型のオブジェクトの配列を返します。

表 B-4 Get-EVClassificationFCITags プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|------------|------|--------------------------|
| PolicyName | 文字列 | 一致する分類ルールまたはポリシー。 |
| カテゴリ | 文字列 | 一致する evtag.category の値。 |
| 含める | 文字列 | 一致する evtag.inclusion の値。 |
| 除外 | 文字列 | 一致する evtag.exclusion の値。 |
| 破棄 | ブール値 | アイテムが破棄されるかどうか。 |

| 名前 | 種類 | 説明 |
|---------------------|-----|-------------|
| RetentionCategories | 文字列 | 一致する保持カテゴリ。 |

Get-EVClassificationPolicy

Get-EVClassificationPolicy は、サイトで設定されるすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。-Name パラメータを使うと、特定の分類ポリシーのプロパティを返すこともできます。

Get-EVClassificationPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [[-Name] <String>]
[<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-5 Get-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---------|---|
| -SiteId | Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を返す対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、Get-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name | プロパティを返す特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。 |

例

- Get-EVClassificationPolicy
Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。サイト ID が指定されていないため、cmdlet はまずその ID をレジストリ内で検索し、ID が見つからなかった場合は、それを入力するためのメッセージが表示されます。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com
指定された Enterprise Vault サイトで設定されているすべての Enterprise Vault 分類ポリシーの一覧を返します。
- Get-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"

「Classification policy」という名前の Enterprise Vault 分類ポリシーのプロパティを返します。次に例を示します。

```
Name                : Classification policy
EntryId             : 125...EV.example.com
IsADefaultPolicy    : True
DuringArchivingIndexing : True
DetermineRC         : True
RCDuringDeletion    : True
RCDuringExpiry      : True
PreventRCDuringMove : True
AllowRCONRecTypeChange : True
Description          : Classification policy
SiteId              : 13E...EV.example.com
```

出力

この cmdlet は、次のプロパティを持つタイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy のオブジェクトを返します。

表 B-6 Get-EVClassificationPolicy プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|-------------------------|---------|--|
| Name | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。 |
| EntryId | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。 |
| IsADefaultPolicy | Boolean | Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。 |
| DuringArchivingIndexing | ブール値 | アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類するかどうか。 |
| DetermineRC | Boolean | 保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。 |
| RCDuringDeletion | Boolean | ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。 |
| RCDuringExpiry | Boolean | 自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。 |

| 名前 | 種類 | 説明 |
|------------------------|---------|---|
| PreventRCDuringMove | Boolean | ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。 |
| AllowRCONRecTypeChange | Boolean | アイテムのレコードタイプが変更される場合に (Temporary から Permanent への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。 |
| Description | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーの説明。 |
| SiteId | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーが属するサイト ID。 |
| Identity | 番号 | Enterprise Vault 分類ポリシーの ID 番号。 |

関連 cmdlet

- p.84 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.92 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.93 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Get-EVClassificationStatus

Get-EVClassificationStatus は、すべてのサイトのファイル分類インフラストラクチャエンジンおよび **Veritas Information Classifier** エンジンの現在の状態を示します。
-SiteId パラメータを使用して特定のサイトのエンジンの状態を示すこともできます。

Get-EVClassificationStatus は、
Veritas.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll スナップインから利用できます。

構文

```
Get-EVClassificationStatus [-SiteId <String>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-7 Get-EVClassificationStatus のパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---------|--|
| -SiteId | 両方の分類エンジンの現在の状態を示す Enterprise Vault サイトの ID です。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |

例

- `Get-EVClassificationStatus`
すべての Enterprise Vault サイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。
- `Get-EVClassificationStatus -SiteId 13E...EV.example.com`
指定したサイト内の両方の分類エンジンの現在の状態を示します。

出力

この cmdlet は、以下のプロパティが設定された

`Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ClassificationEngine` 型のオブジェクトの配列を返します。

表 B-8 Get-EVClassificationStatus のプロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|-----------------|---------|---|
| SiteName | 文字列 | 分類エンジンの状態を示す Enterprise Vault サイトの名前です。 |
| FCIEnabled | Boolean | ファイル分類インフラストラクチャエンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。 |
| VICEnabled | Boolean | Veritas Information Classifier エンジンを使用する分類が有効かどうかを示します。 |
| VICPoliciesPath | 文字列 | Veritas Information Classifier エンジンがポリシー情報を保持するフォルダのパスです。このエンジンを無効にした場合、このパスは空白になります。 |

Get-EVClassificationTestMode

`Get-EVClassificationTestMode` は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで Enterprise Vault 分類機能が動作しているかどうかを報告します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。

Get-EVClassificationTestMode は、スナップイン
Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

```
Get-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <string>
```

パラメータ

表 B-9 Get-EVClassificationTestMode パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|-----------------|---|
| -ArchiveID (必須) | 分類のテストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID を指定します。 |

例

- `Get-EVClassificationTestMode -ArchiveID 19D...EVServer1`
指定したアーカイブについて分類のテストモードの現在の状態を取得します。

出力

表 B-10 は、利用可能なプロパティを一覧表示します。

表 B-10 Get-EVClassificationTestMode プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|-------------|---------|---|
| ArchiveID | 文字列 | テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの ID。 |
| ArchiveName | 文字列 | テストモードの状態を取得する対象となるアーカイブの名前。 |
| TestMode | Boolean | アーカイブについての分類のテストモードの現在の状態: 有効 (\$true) または無効 (\$false)。 |

関連コマンドレット

- p.96 の「[Set-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

Import-EVClassificationFCIRules

メモ: この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

Import-EVClassificationFCIRules は、ファイルから Enterprise Vault のすべての分類プロパティとルールをターゲットサーバーにインポートします。この処理を実行する前に、cmdlet はこれらのサーバーから既存のプロパティとルールを消去します。

この cmdlet は Publish-EVClassificationFCIRules cmdlet と似たような機能を実行します。2 つの違いは、Publish-EVClassificationFCIRules が分類プロパティとルールをターゲットサーバーに公開する前に XML ファイルにエクスポートするのに対して、Import-EVClassificationFCIRules は既存の XML ファイルを使って操作のインポート部分のみを実行することです。

次の点に注意してください。

- この cmdlet を実行するには、cmdlet を実行するサーバーとすべてのターゲットサーバーの両方でシステム管理者ロールが必要です。
- この cmdlet を実行するサーバーに Microsoft Data Classification Toolkit をインストールします。このツールキットは次の Web ページからダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=27123>
- この cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行しない場合は、-SiteId パラメータまたは -Servers パラメータのいずれかを指定する必要があります。cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行し、これらのパラメータを省略する場合は、この cmdlet は現在のサーバーのサイトを使って、サイトのその他すべての Enterprise Vault サーバーに対する公開を行います。
- クラスタ構成 (Windows Server Failover Clustering または Veritas Cluster Server) では、分類プロパティとルールをいずれかのクラスタノードにインポートすると、その他のすべてのノードも更新されます。したがって、別のノードへのフェールオーバー後、以前と同じルールを使って分類が継続されます。
- Enterprise Vault ビルディングブロック環境では、この cmdlet は現在 Enterprise Vault のタスクとサービスをホストしているサーバーのみにインポートします。
- この cmdlet は各ターゲットサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスを停止し、分類プロパティとルールをインポートした後にそのサービスを再起動します。

メモ: 分類プロパティとルールを公開するその他の方法では、ストレージサービスが自動的に停止/再起動されないため、分類エラーが発生する場合があります。たとえば、Microsoft Data Classification Toolkit に付属する PowerShell cmdlet を使う場合がこれに該当します。したがって、分類プロパティとルールを公開する場合は、Import-EVClassificationFCIRules (または Publish-EVClassificationFCIRules) を使うことを強くお勧めします。

Import-EVClassificationFCIRules は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

```
Import-EVClassificationFCIRules [-ImportRulesFile <String>] [-SiteId  
<String>] [-Servers <String>] [-TimeoutSecs <Integer>] [-Confirm  
<Boolean>]
```

パラメータ

表 B-11 Import-EVClassificationFCIRules パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|--------------------------|---|
| -ImportRulesFile (必須) | cmdlet が分類プロパティとルールをインポートする元のファイルを指定します。このファイルには .xml ファイル名拡張子が付いている必要があります。 |
| -SiteId | 分類プロパティとルールの公開先のサイトを識別します。 このパラメータを設定する場合は、同時に -Servers パラメータを設定できません。 |
| -Servers | 分類プロパティとルールのセットを受信するサーバーを指定します。各サーバーの NETBIOS 名、IP アドレス、完全修飾ドメイン名をカンマ区切りリストで入力します。ローカルコンピュータを指定するには、コンピュータ名 "localhost" を入力します。 このパラメータを設定する場合は、同時に -SiteId パラメータを設定できません。 |
| -TimeoutSecs | この cmdlet が各ターゲットサーバーで Enterprise Vault ストレージサービスを停止または開始するときのタイムアウト値を秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。 メモ: この cmdlet が指定した期間内にサービスを再起動できない場合は、失敗したサーバーで分類ルールとストレージサービスの状態を確認します。この cmdlet によって既存のルールが消去されて、新しいルールがインポートされない場合は、サーバーでは分類ルールが欠落したままになります。 |
| -Confirm | \$true (デフォルト値) に設定すると、この cmdlet で分類プロパティとルールをインポートする前に確認を求めるメッセージが表示されます。\$false に設定すると確認メッセージは表示されません。 |

例

- Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile
c:\¥Data¥RulesFile.xml

指定したファイルにある分類プロパティとルールを、現在のサイト (すなわち、この **cmdlet** を実行するサーバーと同じサイト) にあるすべての **Enterprise Vault** サーバーにインポートします。

- `Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile c:¥Data¥RulesFile.xml -SiteId 13E...EV.example.com`
指定したファイルにある分類プロパティとルールを、指定したサイトにあるすべての **Enterprise Vault** サーバーにインポートします。
- `Import-EVClassificationFCIRules -ImportRulesFile c:¥Data¥RulesFile.xml -Servers SERVER1,SERVER2.ABC.DEF.COM`
指定したファイルにあるすべての分類プロパティとルールを指定したすべてのサーバーにインポートします。

出力

この **cmdlet** は、以下のデフォルトプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ServerInfo` 型のオブジェクトを返します。

表 B-12 Import-EVClassificationFCIRules プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|--------------|-----|--|
| ServerName | 文字列 | Enterprise Vault サーバーの名前。 |
| ServerFQDN | 文字列 | Enterprise Vault サーバーの完全修飾ドメイン名。 |
| Result | 文字列 | インポートの結果 (Succeeded/Failed/DuplicateServer)。 |
| ErrorMessage | 文字列 | サーバーへのインポートが成功しなかった場合は、エラーの原因。 |

関連 cmdlet

- p.89 の「[Publish-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

New-EVClassificationPolicy

`New-EVClassificationPolicy` はサイトの **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。

`New-EVClassificationPolicy` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

```
New-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]
[-AllowRConRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-13 New-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|--------------|--|
| -SiteId | Enterprise Vault 分類ポリシーを作成する対象サイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet でレジストリ内を検索して ID を特定できないときは、New-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name (必須) | Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。名前は一意である必要があり、最大 40 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。 |
| -Description | Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。 |

| パラメータ | 説明 |
|--------------------------|---|
| -DuringArchivingIndexing | <p>Enterprise Vault がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、Enterprise Vault がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかを決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p> |
| -DetermineRC | <p>アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。</p> |
| -RCDuringDeletion | <p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p> |
| -RCDuringExpiry | <p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。 |

| パラメータ | 説明 |
|-------------------------|--|
| -PreventRCDuringMove | <p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。Enterprise Vault は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p> |
| -AllowRConRecTypeChange | <p>Enterprise Vault レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRConRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRConRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRConRecTypeChange は無効です。</p> |

例

- `New-EVClassificationPolicy -SiteId l3E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification policy created using PowerShell"`
指定した **Enterprise Vault** サイトに「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。新しいポリシーには「**Classification policy created using PowerShell**」という説明があります。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -DuringArchivingIndexing $true -DetermineRC $false`
「**Classification policy**」という名前の **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテムを分類しますが、保持カテゴリを判別するために分類をしません。
- `New-EVClassificationPolicy -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true`

アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテム进行分类し、分類機能によるアイテムの保持カテゴリの更新を許可する **Enterprise Vault** 分類ポリシーを作成します。このポリシーは、ユーザーがアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリが **Enterprise Vault** によって更新されないようにします。ただし、これによってアイテムのレコードタイプが変更される場合は除きます。

出力

この **cmdlet** は、次のプロパティを持つタイプ

`Symantec.EnterpriseVault.Admin.ClassificationPolicy` のオブジェクトを返します。

表 B-14 New-EVClassificationPolicy プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|-------------------------|---------|---|
| Name | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。 |
| EntryId | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーのディレクトリエントリ ID。 |
| IsADefaultPolicy | Boolean | Enterprise Vault 分類ポリシーがデフォルトのポリシーであるかどうか。 |
| DuringArchivingIndexing | ブール値 | アーカイブ中またはインデックスの作成中にアイテム进行分类するかどうか、インデックスの再構築時に再分類するかどうか。 |
| DetermineRC | Boolean | 保持カテゴリを判別するために分類を使うかどうか。 |
| RCDuringDeletion | Boolean | ユーザーによる削除時にアイテムが分類されるかどうか。 |
| RCDuringExpiry | Boolean | 自動期限切れ時にアイテムが分類されるかどうか。 |
| PreventRCDuringMove | Boolean | ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときに、これらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうか。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があります。 |

| 名前 | 種類 | 説明 |
|------------------------|---------|---|
| AllowRConRecTypeChange | Boolean | アイテムのレコードタイプが変更される場合に (Temporary から Permanent への変更など) 保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可するかどうか。 |
| Description | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーの説明。 |
| SiteId | 文字列 | Enterprise Vault 分類ポリシーが属するサイト ID。 |
| Identity | 番号 | Enterprise Vault 分類ポリシーの ID 番号。 |

関連 cmdlet

- p.77 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.92 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.93 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Publish-EVClassificationFCIRules

メモ: この cmdlet は、Enterprise Vault 12 で導入された分類機能でのみ使用します。この機能では、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用してアーカイブ済みコンテンツを分類します。この cmdlet は、以降の Veritas Information Classifier の分類方法で使用するようには設計されていません。

Publish-EVClassificationFCIRules は、指定したサーバーから Enterprise Vault のすべての分類プロパティとルールを指定した場所にある XML ファイルにエクスポートします。Enterprise Vault では、このファイルを使って、分類プロパティとルールがターゲットサーバーにインポートされます。この処理を実行する前に、cmdlet はこれらのサーバーから既存のプロパティとルールを消去します。

この cmdlet は Import-EVClassificationFCIRules cmdlet と似たような機能を実行します。ただし、Import-EVClassificationFCIRules では Enterprise Vault がその後対象サーバーにインポートする XML ファイルを作成しません。この cmdlet は既存の XML ファイルを使用して、操作のインポート部分のみを実行します。

次の点に注意してください。

- 分類のプロパティおよびルールを設定したサーバーとは異なるサーバーで cmdlet を実行できます。
- この cmdlet を実行するには、cmdlet を実行するサーバーとすべてのターゲットサーバーの両方でシステム管理者ロールが必要です。

- この cmdlet を実行するコンピュータに Microsoft Data Classification Toolkit をインストールする必要があります。このツールキットは次の Web ページからダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/download/details.aspx?id=27123>
- この cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行しない場合は、-SiteId パラメータまたは -Servers パラメータのいずれかを指定する必要があります。cmdlet を Enterprise Vault サーバーで実行し、これらのパラメータを省略する場合は、この cmdlet は現在のサーバーのサイトを使って、サイトのその他すべての Enterprise Vault サーバーに対する公開を行います。
- クラスタ構成 (Windows Server Failover Clustering または Veritas Cluster Server) では、分類プロパティとルールをいずれかのクラスタノードに公開すると、その他のすべてのノードも更新されます。したがって、別のノードへのフェールオーバー後、以前と同じルールを使って分類が継続されます。
- Enterprise Vault ビルディングブロック環境では、この cmdlet は現在 Enterprise Vault のタスクとサービスをホストしているサーバーのみにインポートします。
- この cmdlet は各ターゲットサーバー上の Enterprise Vault ストレージサービスを停止し、分類プロパティとルールをインポートした後にそのサービスを再起動します。

メモ: 分類プロパティとルールを公開するその他の方法では、ストレージサービスが自動的に停止/再起動されないため、分類エラーが発生する場合があります。たとえば、Microsoft Data Classification Toolkit に付属する PowerShell cmdlet を使う場合がこれに該当します。したがって、分類プロパティとルールを公開する場合は、Publish-EVClassificationFCIRules (または Import-EVClassificationFCIRules) を使うことを強くお勧めします。

Publish-EVClassificationFCIRules は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll によって提供されます。

構文

```
Publish-EVClassificationFCIRules [-StagingServer <String>]
[-ExportRulesFile <String>] [-SiteId <String>] [-Servers <String>]
[-TimeoutSecs <Integer>] [-Confirm <Boolean>]
```

パラメータ

表 B-15 Publish-EVClassificationFCIRules パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|---------------------|---|
| -StagingServer (必須) | 分類プロパティとルールを設定したサーバーとエクスポート先のサーバーの名前を指定します。 |

| パラメータ | 説明 |
|--------------------------|---|
| -ExportRulesFile (必須) | 対象サーバーにインポートする前に、 cmdlet が分類プロパティとルールをエクスポートする宛先ファイルのパスを指定します。この cmdlet はファイルをローカルに作成するため、c:¥Data¥RulesFile.xml のようなローカルパスを指定する必要があります。ファイル名に .xml 拡張子が含まれていることを確認してください。 |
| -SiteId | 分類プロパティとルールの公開先の Enterprise Vault サイトを識別します。 このパラメータを設定する場合は、同時に -Servers パラメータを設定できません。 |
| -Servers | 分類プロパティとルールのセットを受信するサーバーを指定します。1 つ以上のサーバーの NETBIOS 名、 IP アドレス、完全修飾ドメイン名をカンマ区切りリストで入力します。ローカルコンピュータを指定するには、コンピュータ名 " localhost " を入力します。 このパラメータを設定する場合は、同時に -SiteId パラメータを設定できません。 |
| -TimeoutSecs | 各ターゲットサーバーで Enterprise Vault ストレージサービスを停止または開始するときのタイムアウト値を秒単位で設定します。デフォルトは 300 秒です。 メモ: この cmdlet が指定した期間内にサービスを再起動できない場合は、失敗したサーバーで分類ルールとストレージサービスの状態を確認します。この cmdlet によって既存のルールが消去されて、新しいルールがインポートされない場合は、サーバーでは分類ルールが欠落したままになります。 |
| -Confirm | \$true (デフォルト値) に設定すると、この cmdlet で分類データを公開する前に確認をメッセージが表示されます。\$false に設定すると確認メッセージは表示されません。 |

例

- Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ
-ExportRulesFile c:¥Data¥RulesFile.xml
分類プロパティとルールをサーバー **SERVERXYZ** から指定したローカルファイルにエクスポートします。この **cmdlet** は、現在のサイト (すなわち、この **cmdlet** を実行するサーバーと同じサイト) にあるすべての **Enterprise Vault** サーバーにプロパティとルールを公開します。
- Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ
-ExportRulesPath c:¥Data¥RulesFile.xml -SiteId 13E...EV.example.com
指定したサイトにあるすべての **Enterprise Vault** サーバーに、エクスポートした分類プロパティとルールを公開します。

- `Publish-EVClassificationFCIRules -StagingServer SERVERXYZ -ExportRulesPath c:¥Data¥RulesFile.xml -Servers SERVER1, SERVER2.ABC.DEF.COM`
指定したサーバーに対して、エクスポートした分類プロパティとルールを公開します。

出力

この cmdlet は、以下のデフォルトプロパティが設定された `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Commands.ServerInfo` 型のオブジェクトを返します。

表 B-16 Publish-EVClassificationFCIRules プロパティ

| 名前 | 種類 | 説明 |
|--------------|-----|---|
| ServerName | 文字列 | Enterprise Vault サーバーの名前。 |
| ServerFQDN | 文字列 | Enterprise Vault サーバーの完全修飾ドメイン名。 |
| Result | 文字列 | 公開の結果 (Succeeded/Failed/DuplicateServer)。 |
| ErrorMessage | 文字列 | サーバーへのインポートが成功しなかった場合は、エラーの原因。 |

関連 cmdlet

- p.81 の「[Import-EVClassificationFCIRules](#)」を参照してください。

Remove-EVClassificationPolicy

`Remove-EVClassificationPolicy` は、指定した Enterprise Vault 分類ポリシーが使用中でなければ削除します。`cmdlet` により、分類ポリシーの削除を確認するためのメッセージが表示されます。

`Remove-EVClassificationPolicy` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll` によって提供されます。

構文

`Remove-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String> [
 <CommonParameters>]`

パラメータ

表 B-17 Remove-EVClassificationPolicy パラメータ

| パラメータ | 説明 |
|------------|---|
| -SiteId | Enterprise Vault 分類ポリシーが属しているサイトの ID。このパラメータを省略した場合に、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できないと、Remove-EVClassificationPolicy によって必要な ID の入力を求めるメッセージが表示されます。 Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。 |
| -Name (必須) | 削除する Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。 |

例

- `Remove-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy"`
指定した Enterprise Vault サイトから「Classification policy」という Enterprise Vault 分類ポリシーを削除します。

出力

なし。

関連コマンドレット

- p.77 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.84 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.93 の「[Set-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Set-EVClassificationPolicy

Set-EVClassificationPolicy は既存の Enterprise Vault 分類ポリシーのプロパティを設定または更新します。

Set-EVClassificationPolicy は、スナップイン Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.AdminAPI.dll によって提供されます。

構文

```
Set-EVClassificationPolicy [[-SiteId] <String>] [-Name] <String>
[-Description <String>] [-DuringArchivingIndexing <Boolean>]
[-DetermineRC <Boolean>] [-RCDuringDeletion <Boolean>]
[-RCDuringExpiry <Boolean>] [-PreventRCDuringMove <Boolean>]
[-AllowRCONRecTypeChange <Boolean>] [<CommonParameters>]
```

パラメータ

表 B-18 Set-EVClassificationPolicy のパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|--------------------------|--|
| -SiteId | <p>Enterprise Vault 分類ポリシーの詳細を設定または更新する対象サイトの ID。このパラメータを省略して、cmdlet がレジストリ内を検索して ID を特定できない場合、Set-EVClassificationPolicy によって必要な ID を入力するためのメッセージが表示されます。</p> <p>Get-EVSite を使用して、サイト ID を取得することができます。</p> |
| -Name (必須) | 設定または更新対象のプロパティを持つ特定の Enterprise Vault 分類ポリシーの名前。ポリシーの名前を変更する場合は、新しい名前を 40 文字までの英数字と空白文字を含んだ、重複しない名前にする必要があります。 |
| -Description | Enterprise Vault 分類ポリシーに対して設定する説明。説明は、最大 127 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。 |
| -DuringArchivingIndexing | <p>Enterprise Vault がアーカイブまたはインデックス作成中にアイテムを分類すべきかどうかを指定します (\$true または \$false)。デフォルトは \$true です。</p> <p>この設定は、Enterprise Vault がインデックスを再構築するときにアイテムを再分類するかどうかも決定します。分類したアイテムをスマートパーティションにアーカイブするように選択している場合、アイテムを再分類しても、あるスマートパーティションから別のスマートパーティションにアイテムが移動されることはないことに注意してください。これらのアイテムは、Enterprise Vault が最初にアーカイブしたスマートパーティションに残ります。</p> <p>たとえば、分類タグ「PII」を 1 つのスマートパーティションに関連付け、タグ「Credit-Card」を別のスマートパーティションに関連付けたとします。「PII」タグに関連付けられたパーティションに Enterprise Vault がアーカイブしたアイテムは、後から ProductNameShort; によって「Credit-Card」タグを使用して再分類されたとしても、最初のパーティションに残ります。</p> |
| -DetermineRC | アイテムの保持カテゴリの更新を分類機能に対して許可するかどうかを (\$true) または (\$false) で指定します。デフォルトは \$true です。 |

| パラメータ | 説明 |
|-------------------------|--|
| -RCDuringDeletion | <p>DetermineRC が \$true である場合は、ユーザーによる削除の分類を有効にするかどうかを(\$true)または(\$false)で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringDeletion を \$true に設定できません。</p> |
| -RCDuringExpiry | <p>DetermineRC が \$true である場合は、自動期限切れの分類を有効にするかどうかを(\$true)または(\$false)で指定します。デフォルトは \$false です。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DetermineRC を \$false に設定している場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定できません。 ■ DuringArchivingIndexing が \$false で、DetermineRC が \$true である場合は、RCDuringExpiry を \$true に設定する必要があります。 |
| -PreventRCDuringMove | <p>DetermineRC が \$true の場合に、ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性のある操作を実行したときにこれらの保持カテゴリを Enterprise Vault が更新しないようにするかどうかを指定します。たとえば、ユーザーは、異なる保持カテゴリが適用されているフォルダ間でアーカイブ済みアイテムを移動することや、許可されている場合に Enterprise Vault Search でアイテムの保持カテゴリを変更することがあります。どちらの操作でも、アイテムの保持カテゴリが変更される可能性があり、分類機能が設定された保持カテゴリが上書きされる可能性があります。</p> <p>PreventRCDuringMove のデフォルトは \$false です。Enterprise Vault は、サイトのアーカイブ設定に従い、アイテムの保持カテゴリを更新するユーザー操作を許可します。</p> |
| -AllowRCOnRecTypeChange | <p>Enterprise Vault レコード管理機能を使って、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けする環境で使います。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$true の場合に (ユーザー操作によって保持カテゴリが更新されないようにする)、AllowRCOnRecTypeChange は、アイテムのレコードタイプも変更されるときにこれらの更新を許可するかどうかを指定します。AllowRCOnRecTypeChange のデフォルトは \$true です。</p> <p>PreventRCDuringMove が \$false の場合、AllowRCOnRecTypeChange は無効です。</p> |

例

- `Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -Description "Classification example policy"`
指定した **Enterprise Vault** サイトで「**Classification policy**」という名前が付いている既存の **Enterprise Vault** 分類ポリシーの説明を更新します。
- `Set-EVClassificationPolicy -SiteId 13E...EV.example.com -Name "Classification policy" -PreventRCDuringMove $true -AllowRCONRecTypeChange $false`
指定した **Enterprise Vault** 分類ポリシーが適用されるアーカイブ内にあるアイテムの保持カテゴリをユーザー操作が更新しないように、このポリシーを設定します。更新が禁止される例には、これによってレコードタイプが変更される場合も含まれます。

出力

完了時に確認メッセージが表示されます。

関連コマンドレット

- p.77 の「[Get-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.84 の「[New-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。
- p.92 の「[Remove-EVClassificationPolicy](#)」を参照してください。

Set-EVClassificationTestMode

`Set-EVClassificationTestMode` は、処理対象アーカイブにおいてテストモードで **Enterprise Vault** の分類機能が動作するようにするかどうかを指定します。テストモードでは、分類機能は、アーカイブのアイテムに分類タグやその他の変更を適用するのではなく、計画している変更を一覧表示するレポートを生成します。次に、結果が十分であるか確認するために、同じアーカイブで `Get-EVClassificationTestMode` を実行できます。

`Set-EVClassificationTestMode` は、スナップイン `Symantec.EnterpriseVault.PowerShell.Snapin.dll` によって提供されます。

構文

```
Set-EVClassificationTestMode [-ArchiveID] <String> [-Enabled  
<Boolean>]
```


パラメータ

表 B-19 Set-EVClassificationTestMode のパラメータ

| パラメータ | 説明 |
|-----------------|--|
| -ArchiveID (必須) | テストモードの状態を設定する対象となるアーカイブの ID を指定します。 |
| -Enabled (必須) | アーカイブについての分類のテストモードを有効にする(\$true)か無効にする(\$false)かを指定します。 |

例

- Set-EVClassificationTestMode -ArchiveID 1E...EVServer1 -Enabled \$true
分類機能が処理対象アーカイブにおいてテストモードで動作するようにするかを指定します。

出力

エラーの場合に例外を返します。ただし、それ以外の場合は何も出力しません。

関連コマンドレット

- p.80 の「[Get-EVClassificationTestMode](#)」を参照してください。

監視とトラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- [監査](#)
- [分類パフォーマンスカウンタの確認](#)
- [分類のトラブルシューティング](#)

監査

[表 C-1](#) Enterprise Vault がその監査データベースに監査ログエントリを保管することのできる分類アクティビティを記述します。監査はデフォルトでは無効にされていますが、『管理者ガイド』の説明に従って操作することで、有効にすることができます。

表 C-1 監査済み分類アクティビティ

| カテゴリ | ログに記録された分類アクティビティ |
|-----------|--|
| 管理アクティビティ | <ul style="list-style-type: none">■ Enterprise Vault 分類ポリシーの作成、更新、削除。■ アーカイブのための、分類テストモードの有効/無効の切り替え。■ アーカイブのための、分類テストモードの表示/非表示の切り替え。 |

| カテゴリ | ログに記録された分類アクティビティ |
|------|--|
| 分類 | <ul style="list-style-type: none">■ インデックスの作成中にアイテムを分類 (CLASSIFIED)。■ インデックスの作成中にアイテムを分類して破棄 (DISCARDED)。■ インデックスの作成中にアイテムを分類して破棄を試行、しかしアイテムまたはアーカイブを保留 (DISCARDONHOLD)。■ アイテムを分類し、自動期限切れの間に破棄を許可 (EXPIRY_ALLOWED)。■ アイテムを分類するが、自動期限切れの間の破棄を許可しない (EXPIRY_BLOCKED)。■ アイテムを分類し、ユーザーによる削除の間に破棄を許可 (USERDELETION_ALLOWED)。■ アイテムを分類するが、ユーザーによる削除の間の破棄を許可しない (USERDELETION_BLOCKED)。 |

Enterprise Vault が提供する Audit Viewer ユーティリティを使用すると、監査データベース内のデータの表示とフィルタを行います。Audit Viewer について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドを参照してください。

分類パフォーマンスカウンタの確認

Enterprise Vault には、使っている分類機能のリアルタイムパフォーマンスデータを取得できる数多くのカウンタが用意されています。このデータは Windows パフォーマンスモニタまたはパフォーマンスカウンタを監視するために使うその他のプログラムを使って表示できます。

表 C-2 ではカウンタについて説明します。

表 C-2 Enterprise Vault 分類のパフォーマンスカウンタ

| カウンタ | 説明 |
|---------------------|---|
| 自動期限切れが許可されたアイテム | 分類の結果としての自動期限切れが Enterprise Vault によって許可されたアイテムの数。 |
| ユーザーによる削除が許可されたアイテム | 分類の結果として Enterprise Vault によってユーザーが削除することが許可されたアイテムの数。 |
| 自動期限切れが遮断されたアイテム | 分類の結果としての自動期限切れが Enterprise Vault によって阻止されたアイテムの数。 |
| 分類での破棄が遮断されたアイテム | 削除にマークされているが、有効な保留状態にあるため Enterprise Vault が削除できないアイテムの数。 |
| ユーザーによる削除が遮断されたアイテム | 分類の結果として Enterprise Vault によってユーザーが削除することがブロックされたアイテムの数。 |

| カウンタ | 説明 |
|--------------|--|
| 分類で破棄されたアイテム | 分類で削除としてマークされているため Enterprise Vault によって破棄されたアイテムの数。 |
| 分類に失敗したアイテム | Enterprise Vault による分類が失敗したアイテムの数。 |
| 正常に分類されたアイテム | <p>Enterprise Vault によって分類の目的で渡され、正常に分類されたアイテムの数。この数には、Enterprise Vault がアイテムを破棄できたかどうかに関係なく、分類によって削除としてマークされたすべてのアイテムが含まれます。</p> <p>正常に分類されたが、Enterprise Vault によるインデックスの作成が失敗したアイテムは、Enterprise Vault によって操作全体が自動的に再試行されるため、複数回カウントされる場合があります。</p> |

分類のトラブルシューティング

分類機能を使うときに次の問題が発生する場合があります。

表 C-3 潜在的な分類の問題

| 問題 | 説明/解決方法 |
|---------------------------------|---|
| Enterprise Vault でアイテムの分類が失敗する。 | <p>次の項目のすべてを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ File Server Resource Manager サービスが実行中で正しく設定している。 ■ Enterprise Vault 保持機能の有効なライセンスを所有している。 ■ 正しい分類ルールを準備している。 ■ ターゲットアーカイブの保持計画と分類ポリシーを正しく設定している。各アーカイブに分類ポリシーを含む関連付けられた保持プランが必要です。 ■ テストモードではなく標準モードで分類を実行している。 <p>p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。</p> <p>さらに、アプリケーションのイベントログを確認します。File Server Resource Manager が分類ルールを評価するときにエラーを返す場合は、エラーイベントに説明が表示されることがあります。たとえば、イベント 41620 は Veritas Information Classifier ルールが無効である可能性を示しています。</p> <p>分類キャッシュフォルダのファイルも調べる必要がある場合があります。</p> <p>p.18 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。</p> |

| 問題 | 説明/解決方法 |
|--------------------|--|
| アイテムが予想どおりに分類されない。 | <p>次のことを試してください:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Enterprise Vault がアイテムを分類していることを確認する (前述参照)。 ■ Enterprise Vault がアイテムを分類しているが結果タグが維持されない場合は、テストモードで分類を実行しているかどうかを確認する。 p.53 の「分類テストモードについて」を参照してください。 ■ PowerShell cmdlet の Get-EVClassificationFCITags を実行して各アイテムに適合するルールを識別する。 p.75 の「Get-EVClassificationFCITags」を参照してください。 ■ 分類ファイルを自動削除せずに保持するように Enterprise Vault を設定する。 p.18 の「キャッシュフォルダで分類ファイルを保持するための Enterprise Vault の構成」を参照してください。 ファイルコンテンツの予想外の異常を確認できます。 ■ fsdmhost プロセスで DTrace ユーティリティを実行して、ルールに一致しない理由を判断する。 DTrace の実行のガイドラインについては『Veritas Enterprise Vault ユーティリティ』を参照してください。 |
| 分類がテストモードでのみ動作する。 | <p>1 つ以上の分類ポリシーを 1 つ以上の保持計画に関連付けても Enterprise Vault は保持機能の有効なライセンスを検出できません。</p> |
| 分類中にタイムアウトが発生する。 | <p>Windows Server 2012 R2 では、File Classification Infrastructure のデフォルトのタイムアウト値は 10 分です。ルールが特に複雑な場合はこのタイムアウト値に達し、エラーイベント 12351 がアプリケーションイベントログに記録されます。Enterprise Vault はアイテムの分類を 4 回試行し、エラーイベント 29075 (「Failed to classify item content」)を Veritas Enterprise Vault イベントログに記録します。</p> <p>この問題を解決するには、タイムアウトの原因となっているルールを簡素化します。</p> <p>メモ: Windows Server 2012 オリジナルリリースではタイムアウトが発生しないため、理論上では複雑なルールの分類に数時間かかる場合があります。この場合は、処理に CPU が大量に消費されるためシステムのパフォーマンスに影響することがあります。そのため、すべての Enterprise Vault サーバーで Windows Server 2012 R2 を実行することを推奨します。</p> |